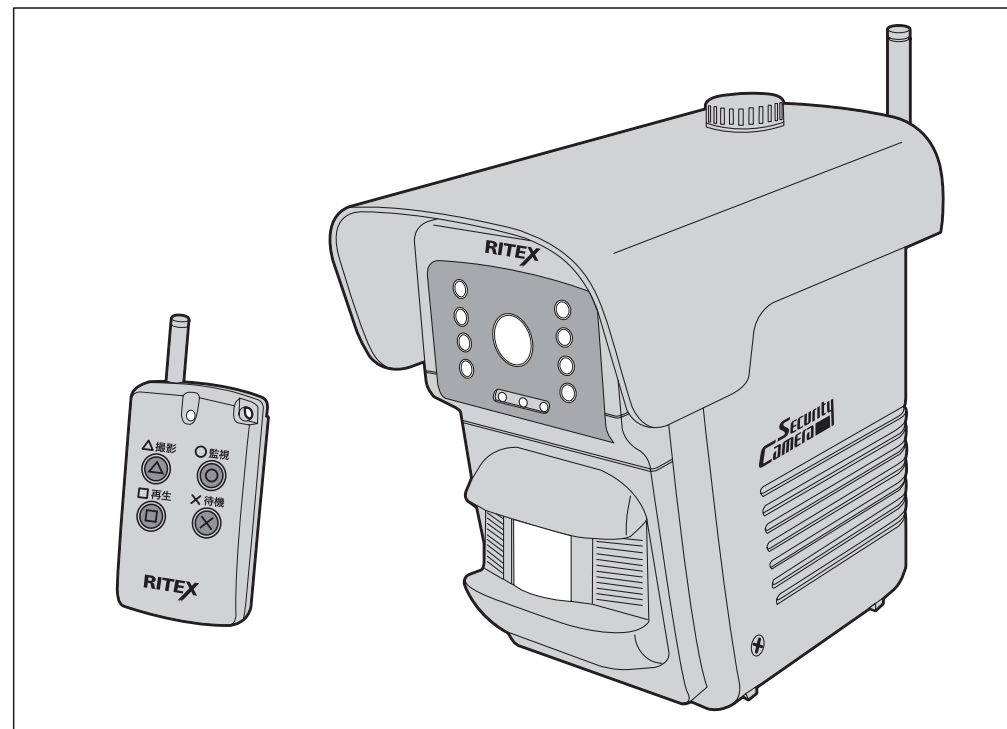


センサー自動撮影 録画カメラ 400shot

取扱説明書

この度は、**RITEX センサー自動撮影 録画カメラ 400shot C-800**をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本機を正しくご使用いただくために、必ず**取扱説明書**をよく読んでください。



⚠ 周囲が暗い状況でご使用される場合の注意

本機には補助灯として赤外線LEDが付いておりますが、撮影距離が4m以上になると、画像が暗くなり見えにくくなります。明るい画像が必要な場合は、別売の無線シリーズのライトと組み合わせるか、または外灯のある場所への設置をお薦めします。

※商品改良の為、仕様・外観は予告なしに変更することがあります。

目次

警告

警告:	警告	P4
-----	----	----

仕様

仕様1:	仕様書	P9～10
仕様2:	カメラの撮影角度	P11
仕様3:	CMOSセンサーの探知範囲	P11
仕様4:	PIRセンサーの探知範囲	P11
仕様5:	各部の名称	P12
仕様6:	付属品	P12

用途

用途1:	特徴	P13
用途2:	本機のみでの用途	P13

準備

準備1:	リモコンに電池を入れる	P14
準備2:	本体とリモコンのチャンネルの確認	P14
準備3:	本体とリモコンの距離確認	P15
準備4:	モニターとの接続	P16
準備5:	モニターで画面を見る	P16

設定

設定1:	各モード（監視、再生、待機、緊急撮影）について	P16
設定2:	リモコン操作の早見表	P17
設定3:	初期設定について	P18
設定4:	設定画面の表示	P19
	・時刻設定	P20
	・撮影間隔	P21
	・撮影枚数	P21
	・上書許可設定	P21
	・センサー感度の設定	P22
設定5:	センサーツマミの設定	
	・時間ツマミ	P23
	・距離ツマミ（PIRセンサーの感度調整）	P23
	・点灯ツマミ	P23
設定6:	チャイムアラーム連動スイッチについて	P24

設置

設置1:	取付場所の注意	P24
設置2:	本体とクランプの取付け方	P25～26
設置3:	取付方法（ブラケットで壁に直接の取付け）	P27
設置4:	取付方法（クランプ台で挟んでの取付け）	P28

使用する

使用する1:	待機モードについて	P29
使用する2:	監視モード（センサーが探知すると撮影）にする時	P30
使用する3:	監視モードを解除する時	P30
使用する4:	緊急撮影をする時	P31

使用した画像の確認・削除

撮影画像1:	再生モードで撮影した画像の確認	P32
撮影画像2:	保存している撮影画像の消去	P33

別売品との組合せ

組合せ1:	別売品の無線シリーズ	P34
組合せ2:	複数の無線シリーズとの組合せ	P35
組合せ3:	別売品との電波到達距離	P36
組合せ4:	チャイム・アラーム連動スイッチの使い方	P37
組合せ5:	本機（C-800）と発信機（別売品）のテスト動作	P37
組合せ6:	本機（C-800）と受信機（別売品）のテスト動作	P38～39
組合せ7:	別売品と組合わせての使用例	P40～41
組合せ8:	ビデオデッキ、DVDレコーダーへの録画をする時	P42～43

その他

故障かなと思った時	P44～49
保証書	P50

安全上のご注意

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を防止する為に、必ずお守りいただきたいことを説明しています。安全にお使いいただくために、以下の注意事項を必ずお守りください。

- 表示内容を見逃して誤った使い方をしたときに生じる危険や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。
- お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。(下記は絵表示の一例です)

	警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」を示しています。
	注意	「けがや財産に損害を受けるおそれがある内容」を示しています。
		このような絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。
		このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
		このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。



警告

電機コード・プラグについて

**電源コードやプラグを
破損させない**



禁止



電源コードを破損する、無理に曲げる、加工するなどしない。
また、重いものを乗せる、挟み込むなどしない。
火災、感電、故障の原因になります。

**AC100V以外の電源電圧では
使わない**



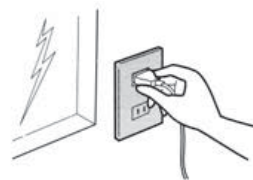
禁止

火災、感電、故障の原因になります。

**雷が鳴りだしたら、電気プラグや
アンテナ線にふれない**



接触禁止



落雷すると感電の原因になります。

**異常が起こったら、使うのをやめ、
電源プラグを抜く**



煙が出る、異常に熱い、においや音などがするときは電源プラグをぬいてください。
電源プラグを抜く

火災、感電、故障の原因になります。

電源プラグのほこり等を取る



プラグを抜き、乾いた布でふいてください。
プラグは時々点検してください。

絶縁不良やショートで火災、感電の原因になります。

**配線器具の仕様をこえる使い方を
しない**



禁止



たこ足配線などの場合、過電流で発熱し、火災、故障の原因になります。

電源はコンセントからとる



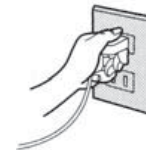
野外コンセントは防水型を使用してください。

火災、感電、故障の原因になります。

**電源プラグは、根元までしっかりと
差し込む**



プラグは時々点検してください。



接触不良で火災、感電の原因になります。

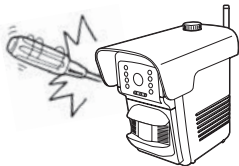
⚠ 警告

ご使用や設置について

分解や改造をしない



分解禁止



修理や内部の点検は、販売店にご相談ください。
火災、感電、故障の原因になります。

引火性溶剤は使わない



禁止

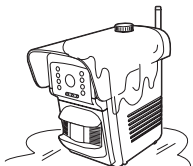


清掃のときは、水で濡らせた布を使用してください。アルコール、ベンジン、シンナー等の引火性溶剤は使用しないでください。
火災、感電の原因となります。

大量の水がかかる場所に設置しない



禁止

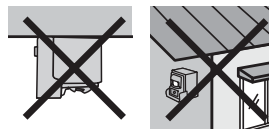


通常の雨、風には耐えますが、防水タイプではありません。※防雨構造はIP44電気機械器具の保護等級について許可を受けた規格です。
故障の原因になります。

屋内・屋外に関係なく下向き、逆さまに取付けない



禁止

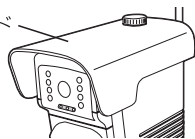


故障の原因になります。

屋外ではフードを取付ける



フード



野外ではフードを取付け、本体の傾きが水平～下向き45°の条件で防雨になります。
故障の原因になります。

医療用電気機器から2m以上はなす



安全管理のため、本機、リモコンとも医療用電気機械から2m以上離してご使用ください。

⚠ 注意

電源コード・プラグについて

お手入れの際や長時間使わないときは、安全のため、電源プラグを抜く



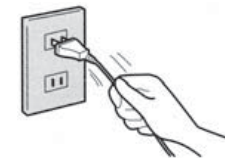
電源プラグを抜く

誤って内部にふれると、感電するおそれがあります。また、通電状態で放置、保管すると、絶縁劣化、漏電などにより、火災のおそれがあります。

電源コードを持って抜かない



禁止



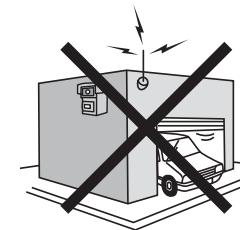
必ず電源プラグを持ってください。
感電、故障の原因になります。

ご使用や設置について

電波を出す器具の近くに取付けない



禁止



故障、誤動作の原因になります。

モーターや磁場を発生させる装置の近くに置かない



禁止



故障の原因になります。

電池の誤った使い方をしない



禁止

火に近づけたり、水に濡らしたり、分解、加工、加熱などしない。
破裂、液漏れの原因になります。



万一、液漏れが発生し、手や衣服に付いた場合は、水でよく洗い流してください。

⚠ 注意

家電製品の近くで使わない



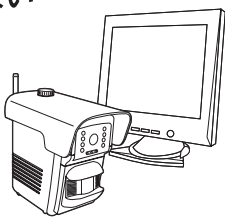
禁止



テレビ、ラジオ、電子レンジ、蛍光灯、電話、ファックス、パソコン、OA機器

や家電製品から2m以上離してください。

故障、誤動作の原因になります。



付属品を使用する



必ず付属品で取付け、配線をおこなってください。

落下、故障の原因になります。

⚠ その他

■ 外気温が急激に下がった場合など、カメラがくもり、映像がぼやけることがあります。故障ではありません。しばらく放置すると正常に戻ります。

■ 冬季、商品の表面が凍結した場合、映像が見えにくくなる場合がありますが故障ではありません。

■ 周囲が暗い状況でご使用の場合、本機には補助灯として赤外線LEDが付いていますが、撮影距離が4m以上になると、画像が暗くなり見えにくくなります。明るい画像が必要な場合は、別売の無線シリーズのライトと組み合わせるか、または外灯のある場所への設置をお勧めします。

■ CMOSセンサー及びPIRセンサーは設置場所の環境の影響を受けます。取付け場所は取扱説明書P24“設置1:取付け場所の注意”を参照してください。

■ 電波が原因で付属のリモコン、別売の **RITEX** 無線シリーズ、**PIXON** ワイヤレスシリーズとの連動がうまくいかない場合があります。特に下記の場合に動作しにくくなります。

- ・録画カメラ本体とリモコンの間に金属や鉄筋コンクリート壁がある。
- ・周辺が金属に囲まれている場所（スチールキャビネットの間、カラオケボックス等）
- ・壁面内に断熱用にアルミ箔を貼り付けたグラスウールがある。
- ・テレビ・ラジオの送信所近辺の強電解地域または各種無線局が近くにある。
- ・アンテナを縮めた状態で操作している。
- ・録画カメラ本体とリモコンの距離が離れすぎている。
- ・録画カメラ本体、またはリモコンの近くで電話を使用している。
- ・ラジオ、電子レンジ、蛍光灯、電話、FAX、パソコン、OA機器や家電製品が近くにある。

※本機はセンサーが探知して撮影・保存する機器で、使用者の安全や犯罪防止を保障するものではありません。本機設置後の、いかなる被害や損害に対しての責任は一切負いかねますのでご了承ください。

※製品改良の為、仕様及び外観は、お断りなしに変更することがありますのでご了承ください。

仕様1:仕様書

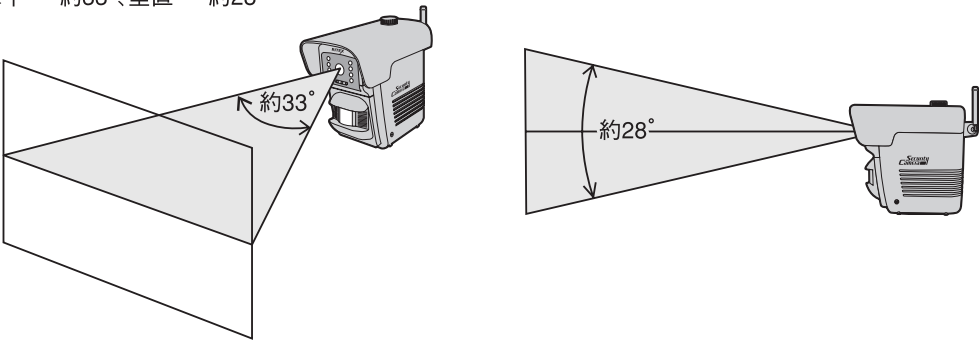
本体

電源	AC 100V	
消費電力	約3W	
使用環境条件	周囲温度:-10℃～+45℃	
撮像素子	1/4型CMOSモノクロカメラ（約25万画素）	
撮影画角	水平約33°、垂直約28°	
最低被写体照度	0.5Lux（照射距離 4m）	
照明方法	高輝度赤外線LED×8個	
監視モード中の自動撮影条件	監視モード中に、CMOSセンサーとPIRセンサーの両方が探知した時に撮影する	
別売品への電波発信条件	PIRセンサーが探知した時に発信する	
CMOSセンサー	探知角度	水平約33°、垂直約28°
	探知距離	最長約8m（CMOSセンサーの感度設定“5”の時）
PIRセンサー （本体の取付け高さ2.5m）	探知角度	水平約54°
	探知距離	最長約8m
	動作保持時間	20秒～5分（別売のW-820、PX-920に対して）
日付時刻設定	年/月/日/時/分	
撮影枚数	約400枚	
連続撮影中の撮影間隔	約0.6秒	
監視モード中の撮影間隔	5～60秒（調整可能）	
監視モードでの撮影枚数	1～8枚（調整可能）	
上書許可設定	“上書許可”または“禁止”	
電波周波数	315MHz	
電波発信距離	見通し約30m（W-820、PX-920に対して）	
	見通し約50m（W-840、PX-940、PX-950に対して）	
電波受信距離	見通し約30m（W-810、W-830、PX-910、PX-930からの電波）	
セレクトチャンネル数	256チャンネル（16×16チャンネル）	
本体のサイズ	幅89mm×奥167mm×高さ142mm（166mmアンテナ含む）	
映像出力端子	フーン端子×1	
映像ケーブル	20m	
取付け方	クランプ式	
クランプの取付けサイズ	厚み	最小約15mm～最大約110mm
	パイプ径	最小約30mm～最大約85mm
本体重量	約1200g（クランプ除く）	
設置場所	屋内、屋外 防雨タイプ（※1） （※1）…本体の傾きが水平～下向き45°の条件で防雨	

リモコン	
電源	DC12V
乾電池	L1028 (12V) またはLRV-08 (12V) アルカリ乾電池1本
送信周波数	315MHz
本体への電波到達距離	約30m
セレクトチャンネル数	256チャンネル (16×16チャンネル)
本体サイズ	幅40mm×奥20mm×高さ72mm
重量	約50g (乾電池含む)
保管場所	屋内

仕様2:カメラの撮影角度

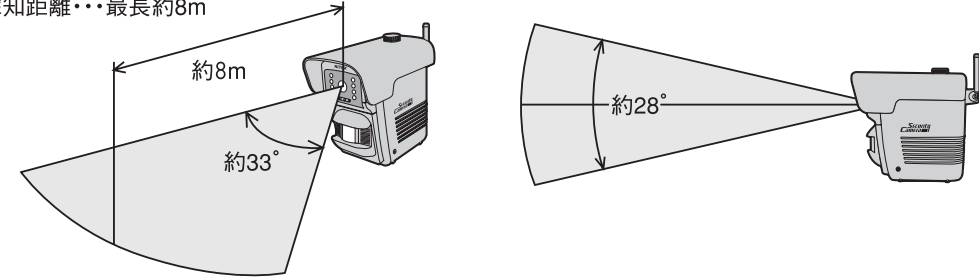
●水平・・・約33°、垂直・・・約28°



仕様3:CMOSセンサーの探知範囲

CMOSセンサー・・・カメラに映る画像の変化に反応します。
人や車が動くことで、カメラに映る画像が変化し反応します。

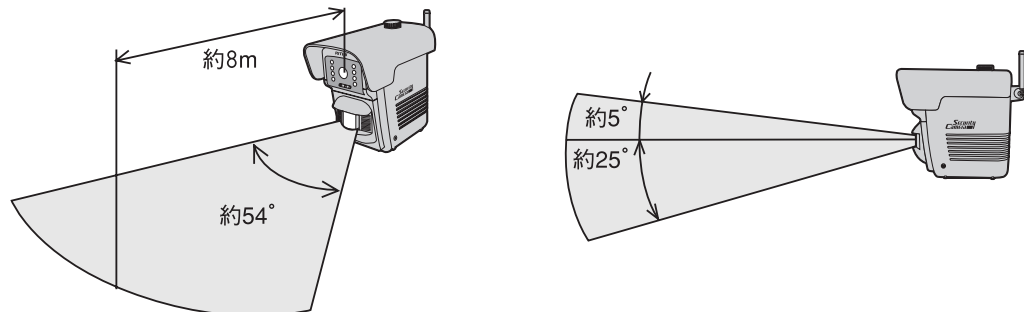
●探知角度・・・水平・・・約33°、垂直・・・約28°
●探知距離・・・最長約8m



※本機に向かって真っすぐ接近してくる場合は、探知が鈍くなります。

仕様4:PIRセンサーの探知範囲

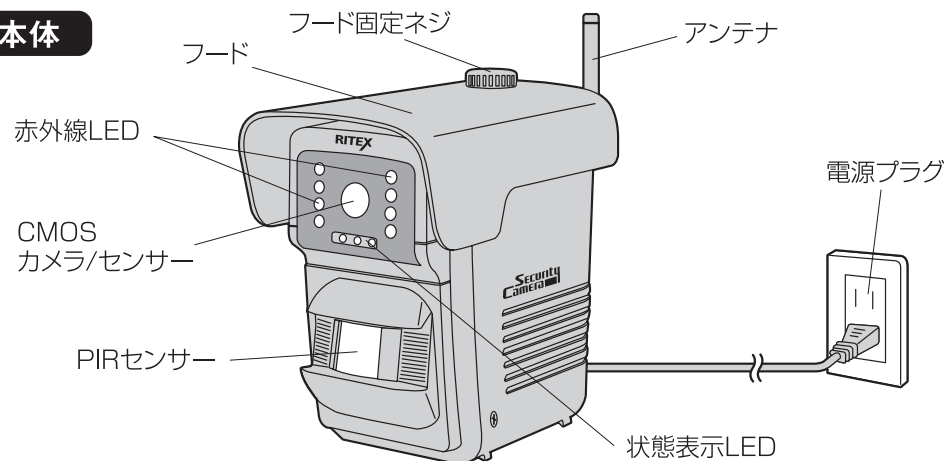
PIRセンサー・・・周囲の温度変化に反応します。
人や車などの熱の動きに反応します。
●探知角度・・・水平・・・約54°、垂直・・・上約5°、下25°
●探知距離・・・最長約8m (本体の取付け高さ2.5m)
※暗い所では探知範囲が、4m以下になる時があります。



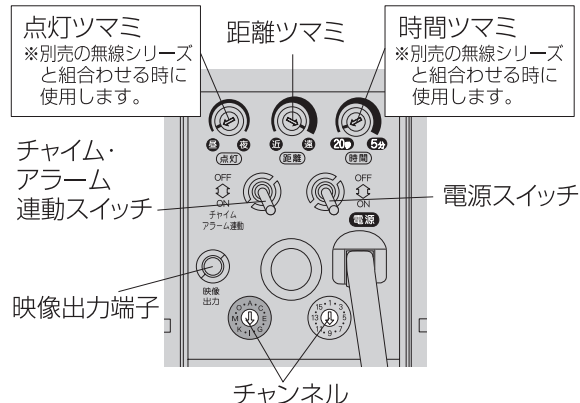
※本機に向かって真っすぐ接近してくる場合は、探知が鈍くなります。

仕様5:各部の名称

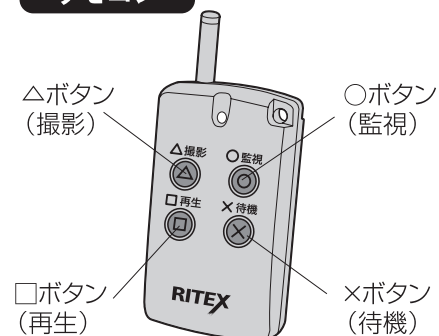
本体



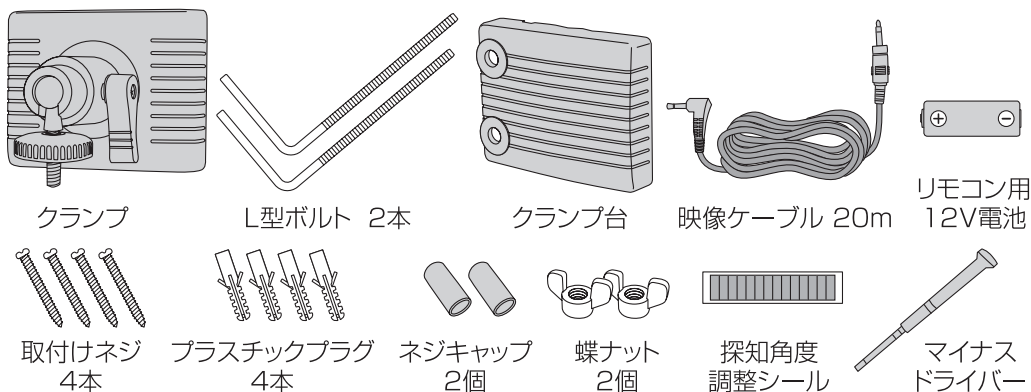
本体の底



リモコン



仕様6:付属品



用途1:特徴

1. 人や動く物を2つのセンサーが探知し、自動撮影します。
2. 撮影画像を本体内に記録します。(※1)
3. 撮影画像の、年月日と時刻の確認ができます。
4. リモコンで撮りたい時に、強制的に撮影ができます。
5. リモコンで離れたところから、設定や画像確認ができます。
6. モニターに接続しておくことで、常時、カメラの画角に入っている画像を確認できます。
7. 別売の**RITEX**の無線シリーズ、**PIXON**のワイヤレスシリーズと組み合わせることで用途が広がります。
8. レバー付きクランプで、カメラ本体の向きを、簡単に調整できます。

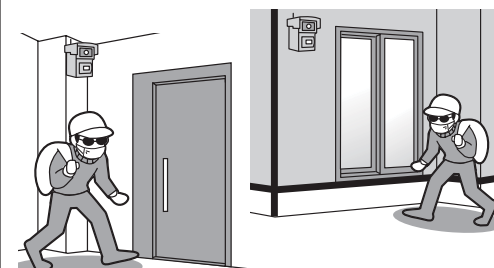
(※1) 撮影枚数が最大撮影枚数(約400枚)に達した後、上書設定が“許可”の場合は古い画像から順に消去していきます。上書設定が“禁止”の場合は、撮影できなくなります。

用途2:本機のみでの用途

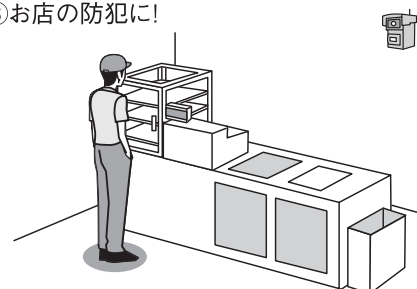
①車のイタズラ・防犯に!



②家の周囲(玄関・窓・勝手口など)の防犯に!



③お店の防犯に!



④玄関の来訪者の確認に!



⑤留守中の訪問者を確認!

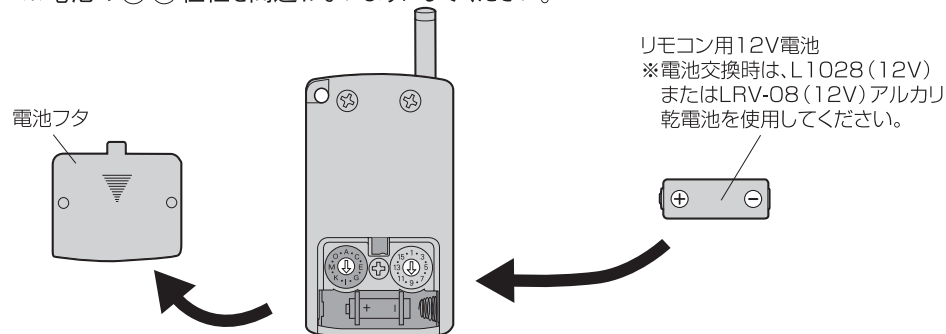


⑥倉庫の不審者の監視に!



準備1:リモコンに電池を入れる

- ①リモコンの電池フタを取外します。
- ②付属品のリモコン用12V電池を取付けます。
※電池の⊕ ⊖ 極性を間違わないようにしてください。



準備2:本体とリモコンのチャンネルの確認

注意 本体の電源をONからOFFにする時は、必ず本体が“待機モード”の状態で行ってください。“監視モード”や“緊急撮影”時に電源をOFFにされると、撮影画像に、点々または横筋などの入った乱れた画像になる可能性があります。この場合は、撮影画像を確認後、一度“全ての画像を消去”(P33)を行ってください。そのまま使用されると、撮影画像が保存できなくなる可能性があります。※“再生中の画像の消去”だけでは、再度、乱れた画像になる可能性があります。必ず“全ての画像を消去”(P33)で消去を行ってください。

- 本体とリモコンのチャンネルが同じになっているか確認してください。

チャンネルの切替え方

① ●本体は底フタを開けた中にチャンネルがあります。
●リモコンは電池フタを開けた中にチャンネルがあります。

本体

リモコン

② ●緑と黄色の内側の矢印の指すチャンネルが本体とリモコンと同じ組合せか確認してください。
※組合せが間違っていると動作しません。

●マイナスドライバーで内側の矢印を回してください。緑と黄色のチャンネルの組合せで256通りのチャンネルに替えることができます。

(出荷時は、緑のチャンネルは“I”、黄色のチャンネルは“9”に設定していますので、そのまま使用できます。)
●チャンネルは256通りできます。緑のチャンネルで16切替え、黄色のチャンネルで16切替え、組合せは256通りできます。近所に同じチャンネルで、録画カメラ 400shotを設置されていますと混信し誤動作をしますのでチャンネルを切替えてください。

※また本機は、無線シリーズにも対応していますので、次の商品が近所に同じチャンネルで、設置されている場合も混信し誤動作をしますのでチャンネルを切替えてください。

RITEX ... W-810、W-820、W-830、W-840

PIXON ... PX-910、PX-920、PX-930、PX-940、PX-950

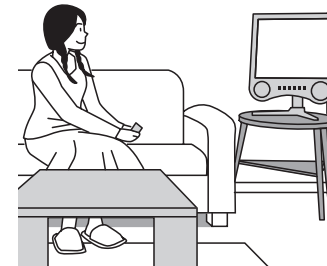
準備3:本体とリモコンの距離確認

※リモコンを操作する時は、アンテナを伸ばした状態で行ってください。
アンテナを縮めた状態では、電波の到達が悪くなります。
※本体を取付ける前に、リモコンの電波が届く位置であるかを確認します。

- ①本体とモニターを映像ケーブルで接続した後、取付ける予定の所に、本体を置きます。



- ②モニターとして使用する、テレビの近くでリモコン操作をし、画面が切替わるか確認します。
ボタン操作が、できたり、できなかったりする場合は、本体とリモコン操作の距離を近づけてください。

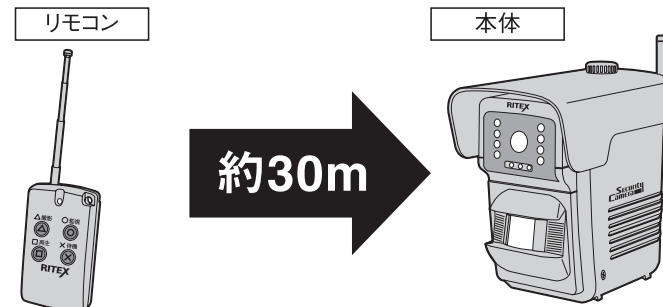


電波の原因で、リモコンとの動作がしない場所

- リモコンと本体の間に金属や鉄筋コンクリート壁がある。
周辺が金属に囲まれている場所(スチールキャビネットの間、カラオケボックス等)
- 壁面内に断熱用にアルミ箔を貼り付けたガラスウールがある。
- テレビ・ラジオの送信所近辺の強電解地域または各種無線局が近くにある場合。
- アンテナを縮めた状態で操作している。
- リモコンと本体の間の距離が離れすぎている。
- リモコン、本体の近くで携帯電話やPHS電話を使用している場合
- ラジオ、電子レンジ、蛍光灯、コードレス電話、FAX、パソコン、OA機器や家電製品から2m以上離してください。

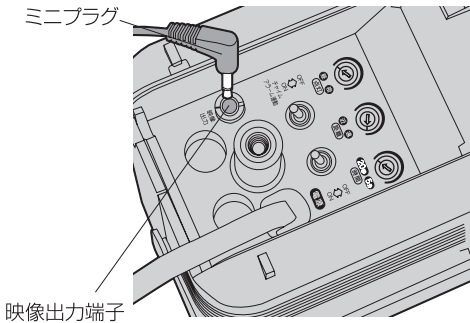
見通しの良い所での電波到達距離

※リモコンと本体の間に障害物があると極端に電波到達距離が短くなる時があります。

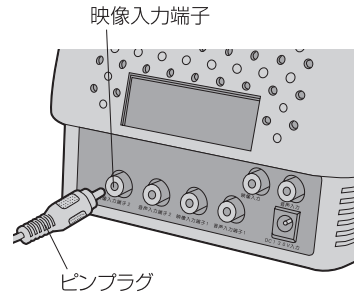


準備4:モニターとの接続

- ① 本体の映像出力端子に、付属の映像ケーブルのミニプラグを接続します。



- ② 映像ケーブルのピンプラグを、お手持ちのモニターの映像入力端子に接続します。



準備5:モニターで画面を見る

- ① 本体の電源スイッチをONにします。



- ② 接続されている映像入力の画面に切替えて、画面にカメラの画像が映っているか確認してください。



設定1:各モード(監視、緊急撮影、再生、待機)について

- 監視モード**(詳しくはP30を参照)
 - 人や動く物を探知すると撮影をします。約400枚まで記録できます。
 - 設定画面で撮影条件を設定します。
 - 監視モード中はモニターでカメラに映っているものを確認できます。
- 緊急撮影**(詳しくはP31を参照)
 - 待機中または監視モード中に、△ボタン(撮影)を押すと緊急撮影をします。
 - 1回の緊急撮影での保存枚数は設定画面で設定します。
- 再生モード**(詳しくはP32を参照)
 - 監視モード、緊急撮影で撮影した画像の再生(確認)をします。
- 待機モード**(詳しくはP29を参照)
 - 電源をONにした時のカメラの視野角に入っている画像を映している状態です。
 - モニターでカメラに映っているものを確認できます。
 - お手持ちの、ビデオデッキ、DVDレコーダー、HDDに録画できます。

設定2:リモコン操作の早見表

電源ON

待機モード



○:“監視モード”へ
△:“緊急撮影”する
□:撮影画像ある時“再生モード”へ
×:待機中は使用しない
※“待機モード”については“待機モードについて”(P29)を参照

監視モード

約30秒後に“監視モード”になります。
×:“待機モード”に戻る
※“監視モード”については、“監視モードにする時”(P30)を参照

緊急撮影(撮影後は“待機モード”に戻る。)

△を1回押すごとに緊急撮影する。
※“緊急撮影モード”については、“緊急撮影する時”(P31)を参照

設定画面(撮影画像がない時、“設定画面”になる)

○:設定を変更する
×:“待機モード”に戻る
※“設定画面”については、“設定画面の表示”(P19~22)を参照

再生モード(撮影画像がある時、“再生モード”になる)

○:1枚後の画像になる
△:1枚前の画像になる
□:メニュー画面になる
×:“待機モード”に戻る
※“再生モード”については、“再生モードで撮影した画像の確認”(P32)を参照

メニュー画面

○:再生中の画像を消去
△:全ての画像を消去
□:“設定画面”になる
×:“再生モード”に戻る

再生中の画像を消去

○:消去する
×:“再生モード”に戻る
※再生画像の消去については、“再生中の画像を消去”(P33)を参照

全ての画像を消去

○:全消去する
×:“再生モード”に戻る
※再生画像の消去については、“全ての画像を消去”(P33)を参照

画面が数秒暗くなり全消去します。その後、“待機モード”に戻ります。

設定3:初期設定について

設定画面では、次の機能の設定を行います。

1. 時刻設定

現在の年月日と時刻を設定します。

2. 撮影間隔設定 (5～60秒)

撮影完了後から次の撮影までの間撮影を行わない時間を設定します。

3. 撮影枚数設定 (1～8枚)

一度の撮影での枚数を設定します。

4. 上書許可設定 (許可/禁止)

最大撮影枚数 (約400枚) に達した後の設定をします。

●許可・・・最大撮影枚数 (約400枚) に達した後、最初の画像から上書します。

●禁止・・・最大撮影枚数 (約400枚) に達すると“ビビビ”と本体から音が鳴り、撮影を禁止します。

5. センサー感度設定 (1～6)

CMOSセンサーのセンサー感度を設定します。

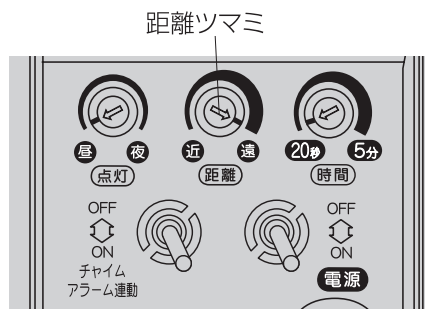
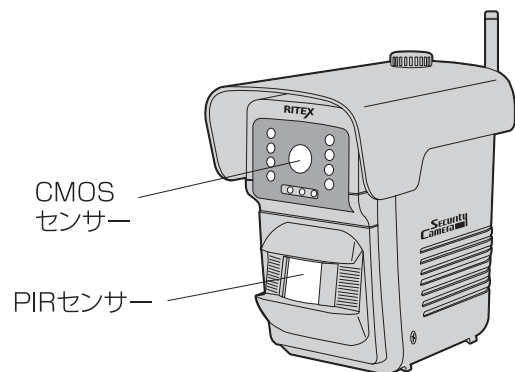
数値が大きいほど、小さな動きにも反応します。推奨設定は設定“5”です。

注意1. この設定画面の、センサー感度設定は、CMOSセンサーの感度設定です。

本機は、監視モードにおいて、CMOSセンサーとPIRセンサーの2つが探知した時に、自動撮影をします。

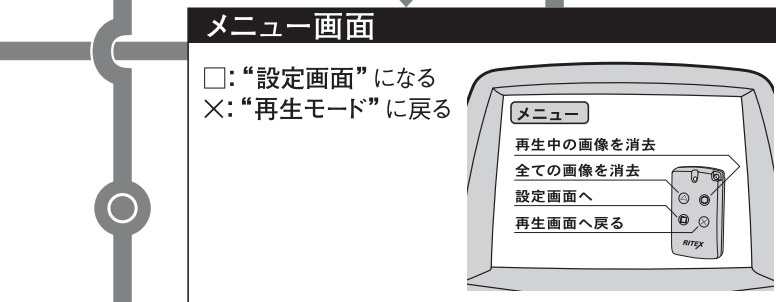
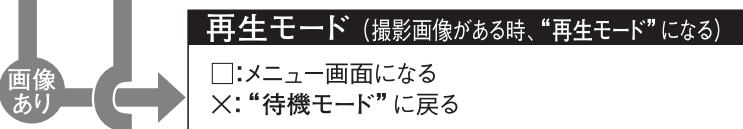
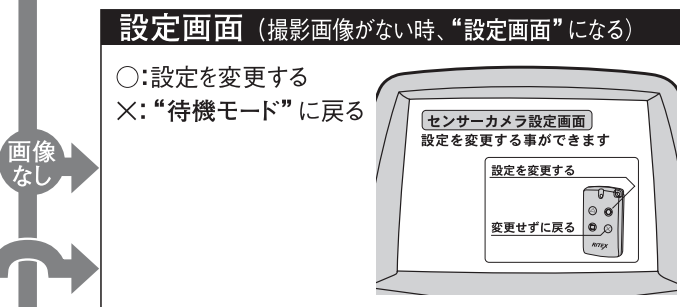
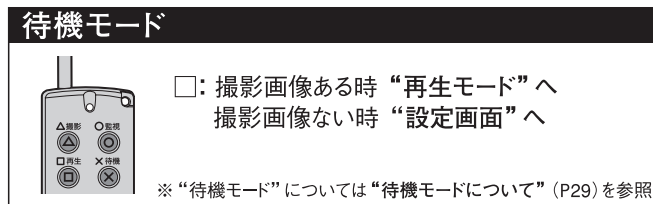
監視モードで自動撮影できない場合は、PIRセンサーの“距離ツマミ”が^②側になっているか確認してください。^①側になっている場合は、PIRセンサーの探知範囲が狭くなっている為、探知しにくいことがあります。

注意2. 別売の無線シリーズとの送受信については、PIRセンサーのみの探知で行います。



設定4:設定画面の表示

電源ON



時刻設定

20Pへつづく

P19からのつづき

時刻設定

- 現在の年月日と時刻を設定します。
再生モードで、撮影した年月日と時刻がわかります。
- 年/月/日/時/分 を設定します。
 - ボタン・・・+1
 - △ボタン・・・-1
 - ボタン・・・決定（次の項目に行きます）
 - ×ボタン・・・戻る（前の項目に戻ります）



例

画面右上の時刻が、05/12/20/15:00 で、現在の時刻が、2006年10月15日18時05分の場合

① 年の設定

05/12/20/15:00



06/12/20/15:00

“年”の項目にカーソル（下線）があります。
“05”→“06”にするので○ボタン1回押します。（+1）
行き過ぎた場合は△ボタンを押して、戻ります。
□ボタンを押して、次の項目（月）に行きます。

② 月の設定

06/12/20/15:00



06/10/20/15:00

“月”の項目にカーソル（下線）があります。
“12”→“10”にするので△ボタン2回押します。（-2）
行き過ぎた場合は○ボタンを押して、戻ります。
□ボタンを押して、次の項目（日）に行きます。

③ 日の設定

06/10/20/15:00



06/10/15/15:00

“日”の項目にカーソル（下線）があります。
“20”→“15”にするので△ボタン5回押します。（-5）
行き過ぎた場合は○ボタンを押して、戻ります。
□ボタンを押して、次の項目（時）に行きます。

④ 時の設定

06/10/15/15:00



06/10/15/18:00

“時”の項目にカーソル（下線）があります。
“15”→“18”にするので○ボタン3回押します。（+3）
行き過ぎた場合は△ボタンを押して、戻ります。
□ボタンを押して、次の項目（分）に行きます。

⑤ 分の設定

06/10/15/18:00



06/10/15/18:05

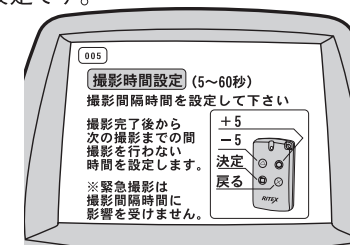
“分”の項目にカーソル（下線）があります。
“00”→“05”にするので○ボタン5回押します。（+5）
行き過ぎた場合は△ボタンを押して、戻ります。
□ボタンを押して、時刻の設定は終わり、“撮影間隔設定”に移ります。

21Pへつづく

P20からのつづき

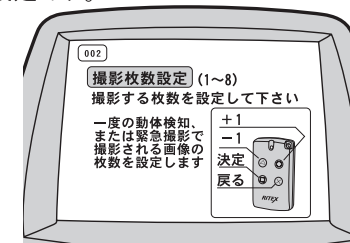
撮影間隔設定

- 撮影間隔設定をします。画面左上に表示されます。
撮影完了後から次の撮影までの間撮影を行わない時刻の設定です。
- 5～60秒（12段階）の間でを設定します。
 - ボタン・・・+5
 - △ボタン・・・-5
 - ボタン・・・決定（次の項目に行きます）
 - ×ボタン・・・戻る（前の項目に戻ります）



撮影枚数設定

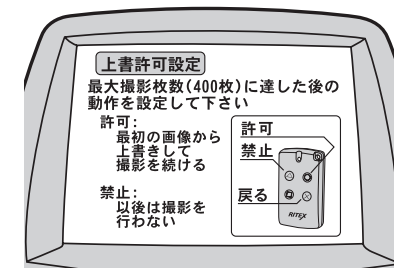
- 一度の撮影での枚数を設定します。画面左上に表示されます。
“監視モード”と“緊急撮影”での一度に撮影する枚数の設定です。
- 1～8枚の間で設定します。
 - ボタン・・・+1
 - △ボタン・・・-1
 - ボタン・・・決定（次の項目に行きます）
 - ×ボタン・・・戻る（前の項目に戻ります）



上書許可設定

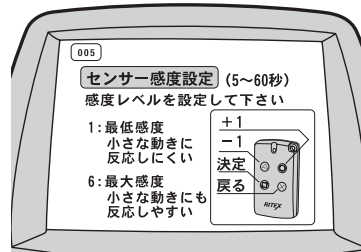
- “許可”か“禁止”を選択します。
 - ボタン・・・許可
 - △ボタン・・・禁止
 - ×ボタン・・・戻る（前の項目に戻ります）

“許可”か“禁止”を選択後、次の項目に行きます。



22Pへつづく

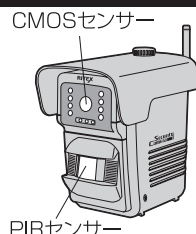
- CMOSセンサーの感度レベルを設定します。
1～6の間でレベルを設定します。
- ボタン・・・+1
- △ボタン・・・-1
- ボタン・・・決定（次の項目に行きます）
- ×ボタン・・・戻る（前の項目に戻ります）



- 設定1・・・約1m
- 設定2・・・約2m
- 設定3・・・約4m
- 設定4・・・約6m
- 設定5・・・約8m
- 設定6・・・CMOSセンサーは常にON（探知状態）になります。

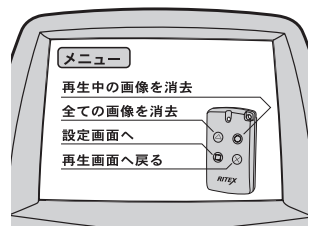
注意

この設定画面の、センサー感度設定は、CMOSセンサーの感度設定です。本機は、監視モードにおいて、CMOSセンサーとPIRセンサーの2つが探知した時に、自動撮影をします。ここでの設定はCMOSセンサーのみの設定です。監視モードで自動撮影できない場合は、PIRセンサーの“距離ツマミ”が「遠」側になっているか確認してください。「近」側になっている場合は、PIRセンサーの探知範囲が狭くなっている為、探知しにくいことがあります。



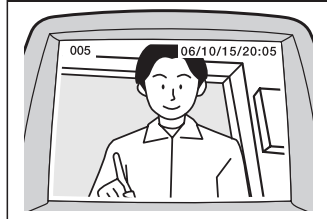
（撮影画像がある場合）

メニュー画面



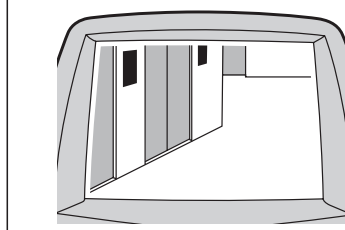
×ボタン（待機）
を1回押す

再生モード



（撮影画像がない場合）

待機モード

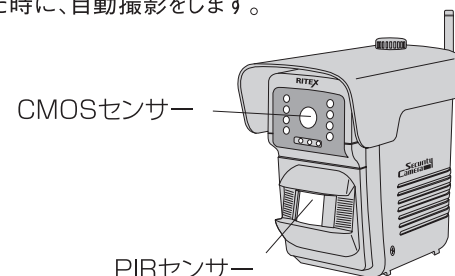


×ボタン（待機）
を1回押す

注意

このセンサーツマミの設定は、PIRセンサー側のみの設定です。CMOSセンサーの設定は、メニュー画面からの設定変更で行います。

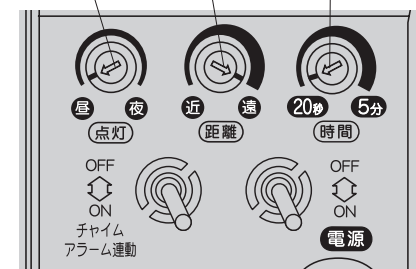
※本機は、監視モードにおいて、昼夜関係なく、CMOSセンサーとPIRセンサーの2つが探知した時に、自動撮影をします。



点灯ツマミ
※別売の無線シリーズと組み合わせる時に使用します。

時間ツマミ
※別売の無線シリーズと組み合わせる時に使用します。

距離ツマミ



1. 点灯ツマミの設定

※本機のみを使用時には、このツマミは使用しません。本機の監視モードでは、昼、夜関係なくPIRセンサーは常に探知します。別売の無線シリーズのW-820（ハロゲンライト150W）、PX-920（ライト）、PX-950（ソーラーライト）と組合わせた時に使用します。

☀ 側に設定の場合・・・昼、夜関係なく探知し、無線シリーズの受信機が動作します。

🌙 側に設定の場合・・・夜の暗い時のみ探知し、無線シリーズの受信機が動作します。

※夜でも他の照明の光が当たる時は☀ 側に調節します。

2. 距離ツマミの設定

📏 側に設定の場合・・・PIRセンサーのセンサー感度が弱くなります。小さな犬、猫やクーラーの熱、太陽光の変化等の誤作動を少なくしたい時に調節します。

📏 側に設定の場合・・・最もPIRセンサーの感度が高く、探知しやすい状態になります。

3. 時間ツマミの設定

※本機のみを使用時には、このツマミは使用しません。別売の無線シリーズのW-820（ハロゲンライト150W）、PX-920（ライト）と組合わせた時に使用します。

20秒 に設定の場合・・・本機のセンサーが探知して、別売の無線シリーズのW-820（ハロゲンライト150W）、PX-920（ライト）が点灯し、約20秒後に消灯します。

5分 に設定の場合・・・本機のセンサーが探知して、別売の無線シリーズのW-820（ハロゲンライト150W）、PX-920（ライト）が点灯し、約5分後に消灯します。

※時間ツマミの角度は時間とは比例しません。

※本機のPIRセンサーの探知範囲内にいつまでもいると、点灯時間が延長され消灯しません。

設定6:チャイム・アラーム連動スイッチの設定

チャイム・アラーム連動スイッチは、別売の無線シリーズのW-840(チャイム・アラーム)、PX-940(ボイス付チャイム&アラーム)と組み合わせる時に、使用するスイッチです。

●チャイム・アラーム連動スイッチがOFFの時
本機の“点灯ツマミ”に関係なく、PIRセンサーが探知すると、チャイムアラームが昼も夜も鳴ります。

●チャイム・アラーム連動スイッチがONの時
本機の“点灯ツマミ”に連動して、PIRセンサーが探知すると、チャイムアラームが鳴ります。

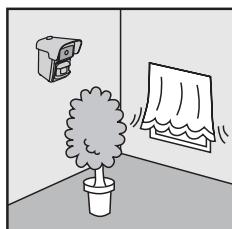
(例) 点灯ツマミを**夜**に回している場合、夜暗くなってから鳴ります。

チャイム・アラーム連動スイッチ

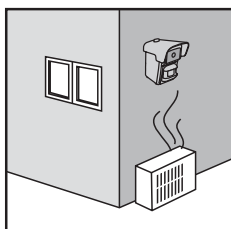


設置1:取付け場所の注意

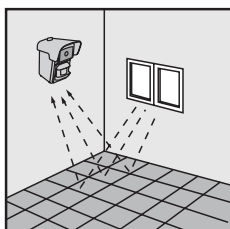
※CMOSセンサーは、カメラに映る画像の変化に反応、PIRセンサーは、周囲の明るさと温度変化に探知するので、図の場所に取り付けると誤動作や、動作しない時があります。



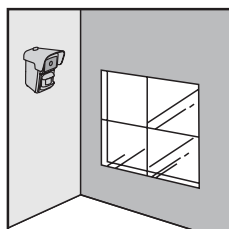
風などでゆれる植物やカーテン等の近く



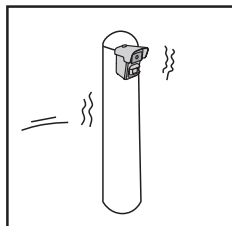
エアコン等の送風を受ける所



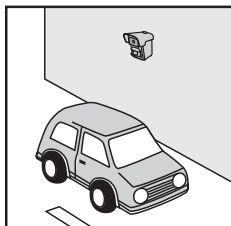
大理石の床や壁等の光の反射を強く受ける所



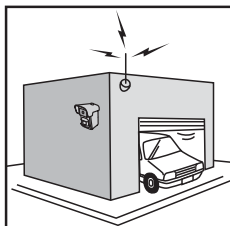
ガラスや壁ごしの所



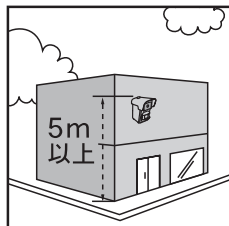
強い振動を受ける所



車の通る道路に面した所



電波の強い所



取付け高さが5m以上の所

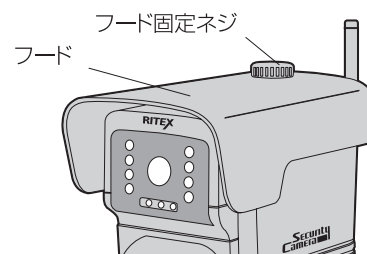
設置2:本体とクランプの取付け方

取付け場所に合わせて、クランプを本体の天面、背面、底面の3箇所から、取付ける位置を決めます。

フードの取付け、取外し

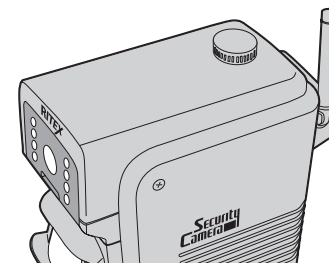
屋外・屋内に設置の場合(フード付き)

●屋外に設置する場合は、フードを必ず取付けて使用してください。
太陽光の熱や雨に對しての、耐久性の為です。



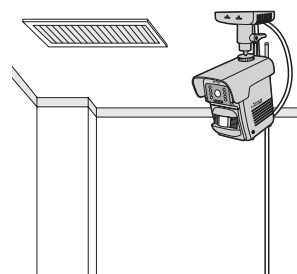
屋内に設置の場合(フードなし)

●屋内で使用する場合は、フードを取外して設置しても結構です。

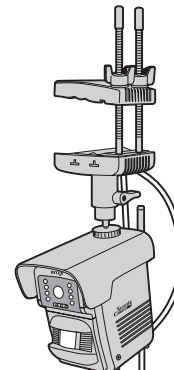


本体の天面にクランプ

天井への取付け

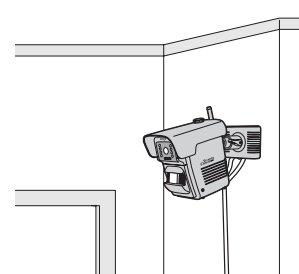


柱に吊り下げでの取付け

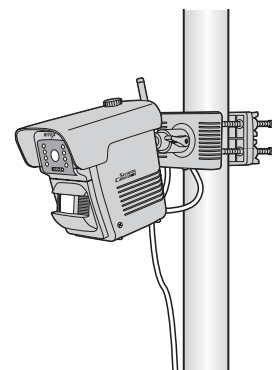


本体の背面にクランプ

壁への取付け

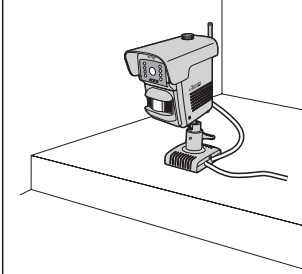


縦向きの柱への取付け



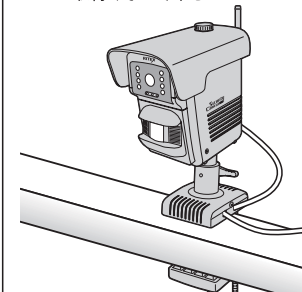
本体の底面にクランプ

台の上への取付け



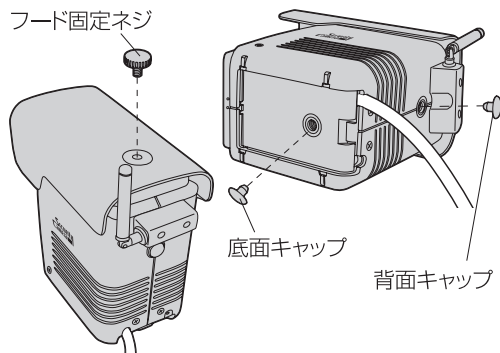
角パイプ、角柱の上への取付け

※丸パイプの場合、本体の重みで回転する危険性があるので、丸パイプの上には取付けしないで下さい

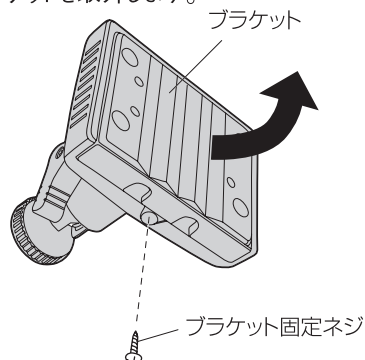


本体にクランプの取付け方

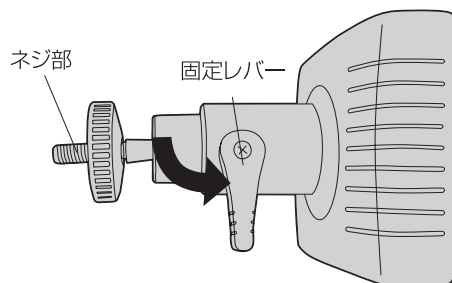
- ① 取付け場所に合せて、3箇所の、ネジまたはキャップを取外します。



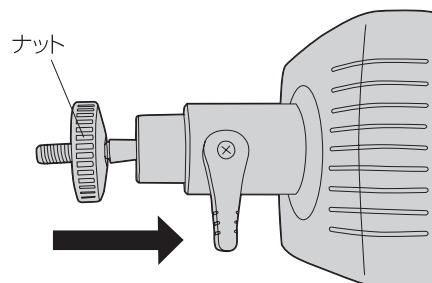
- ② クランプのブラケット固定ネジを取外し、ブラケットを取外します。



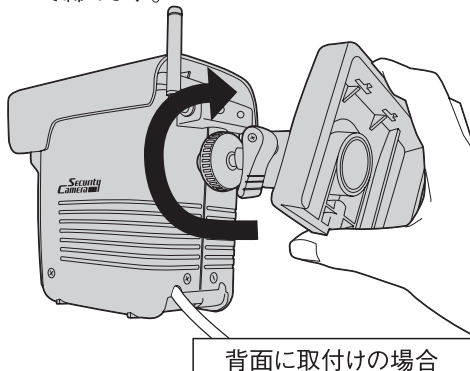
- ③ ネジ部を固定する為、固定レバーを矢印の方に回します。



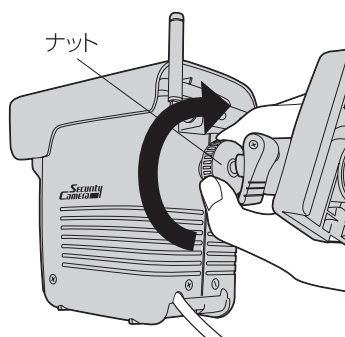
- ④ クランプのナットを、矢印の方に、いっぱいまで回します。



- ⑤ クランプのネジを本体に対して、いっぱいまで締めます。



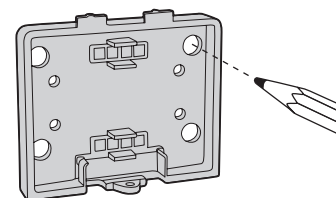
- ⑥ ナットを締めてクランプを固定します。



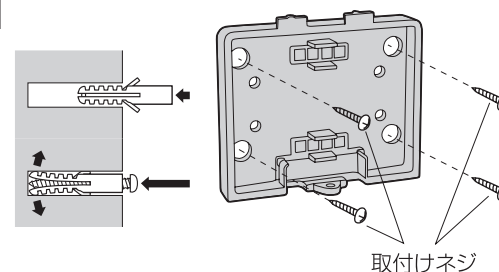
設置3:取付方法(ブラケットで壁に直接の取付け)

- ① ブラケットを取付ける壁に当てて、鉛筆などで印付けます。

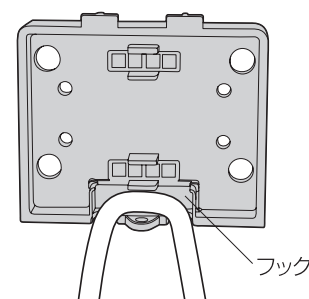
- 取付ける壁が、アルミ板、薄鉄板の場合
 - ・印に電気ドリル等でΦ3.3mmの穴を開けます。
- 取付ける壁が、木の場合
 - ・印に電気ドリル等でΦ3mmの穴を開けます。
 - ・付属の取付けネジでブラケットを取付けます。



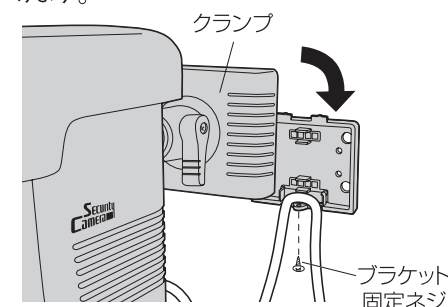
- 取付ける壁が、コンクリートの場合
 - ・印に振動ドリル等でΦ3.3mmの穴を開けます。
 - ・プラスチックプラグを穴に差込み、金づち等で軽く叩き、壁の面と合わせます。
 - ・付属の取付けネジでブラケットを取付けます。



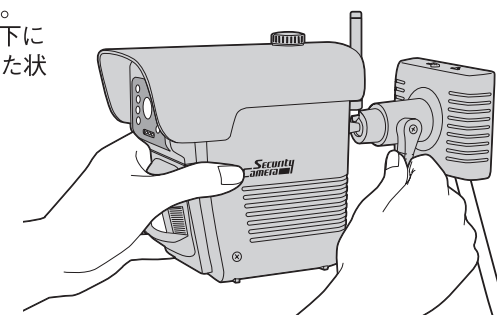
- ② 電源コードをブラケットのフックに引掛けます。



- ③ 本体に取付けたクランプをブラケットの上の爪に取付け、ブラケット固定ネジを締め付けます。



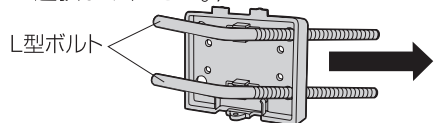
- ④ 本体の角度をお好みの角度に調整します。
※固定レバーをゆるめると、本体の重みで下に傾くので、角度調整の際は、本体を支えた状態で行ってください。



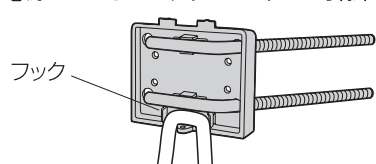
設置4:取付方法 (クランプ台で挟んでの取付け)

縦向き の 柱 の 場合

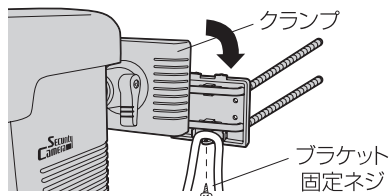
- ① ブラケットの内側から、図のようにL型ボルトを通します。(取付け場所により左右の穴を選択してください。)



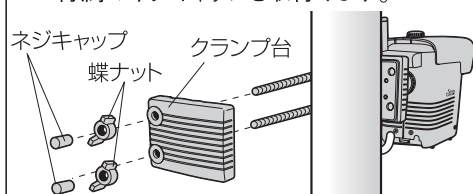
- ② 電源コードをブラケットのフックに引掛けます。



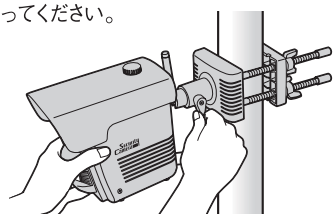
- ③ 本体に取付けたクランプをブラケットの上の爪に取付け、ブラケット固定ネジを締付けます。



- ④ L型ボルトを柱を間にして、クランプ台の穴に通し、蝶ナット2個でしっかり締めます。付属のネジキャップを取付けます。

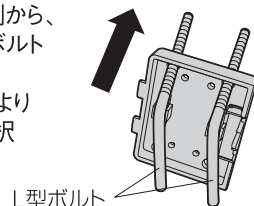


- ⑤ 本体の角度をお好みの角度に調整します。
※固定レバーをゆるめると、本体の重みで下に傾くので、角度調整の際は、本体を支えた状態で行ってください。

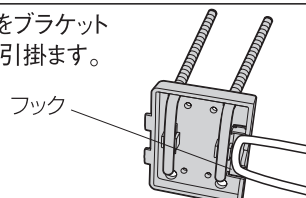


横向き の 柱 の 場合

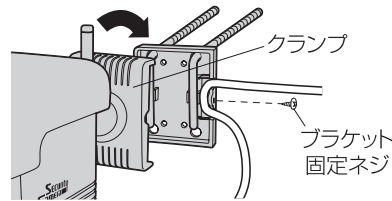
- ① ブラケットの内側から、図のようにL型ボルトを通します。(取付け場所により左右の穴を選択してください。)



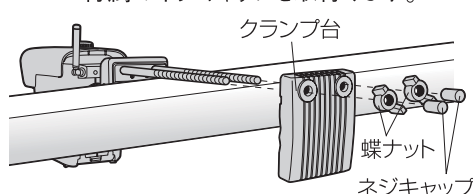
- ② 電源コードをブラケットのフックに引掛けます。



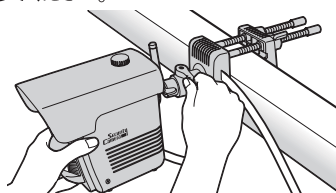
- ③ 本体に取付けたクランプをブラケットの上の爪に取付け、ブラケット固定ネジを締付けます。



- ④ L型ボルトを柱を間にして、クランプ台の穴に通し、蝶ナット2個でしっかり締めます。付属のネジキャップを取付けます。



- ⑤ 本体の角度をお好みの角度に調整します。
※固定レバーをゆるめると、本体の重みで下に傾くので、角度調整の際は、本体を支えた状態で行ってください。



使用する1:待機モードについて

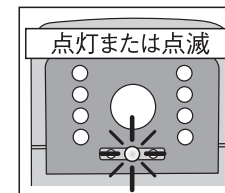
- 電源をONにした時のカメラの視野角に入っている画像を映している状態です。
- モニターでカメラに移っているものを確認できます。
- “監視モード”、“再生モード”にする前は、“待機モード”にする必要があります。

待機モードの確認

“待機モード”中は、本体の中央の緑色LEDが、点灯または点滅します。

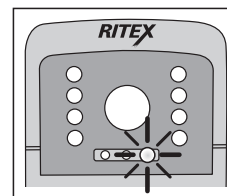
※緑色LEDが点灯・・・本体に記録している画像を全て確認済みの場合

※緑色LEDが点滅・・・本体に記録している画像で未確認がある場合



本体が“再生モード”になっている場合の待機モードへの手順

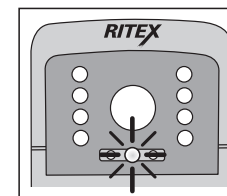
- ① “再生モード”中は、本体右側の橙色LEDが点灯しています。



- ② リモコンのXボタン(待機)を1回押します。

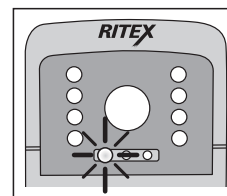


- ③ 本体の中央の緑色LEDが点灯または点滅になり、待機モードになります。



本体が“監視モード”になっている場合の待機モードへの手順

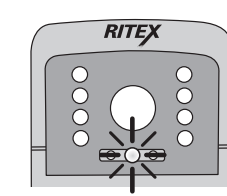
- ① “監視モード”中は、本体左側の赤色LEDが点灯または点滅しています。



- ② リモコンのXボタン(待機)を1回押します。



- ③ 本体の中央の緑色LEDが点灯または点滅になり、待機モードになります。

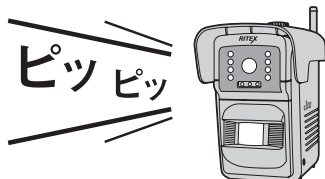


使用する2:監視モード(センサーが探知すると撮影)にする時

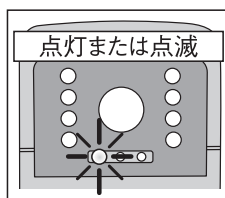
※“監視モード”を始める前に、設定画面での撮影条件(P19～P22)と、センサーツマミの設定(P23)を設定してください。

- ① “待機モード”になっているか確認します。
※“待機モード”になっていない場合は、“待機モードについて”(P29)を参照

- ② リモコンの○ボタン(監視)を1回押します。
- ③ 約30秒間、“ピッピッ”と鳴ります、この間にセンサーの探知範囲から外れてください。



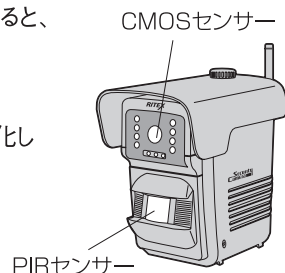
- ④ “ピッピッ”の音が鳴り終わると、監視モードが始まります。
本体の左側のLEDが赤色に、点灯または点滅すれば“監視モード”になっています。
※赤色LEDが点灯・・・本体に記録している画像を全て確認済みの場合
※赤色LEDが点滅・・・本体に記録している画像で未確認がある場合



- ⑤ “CMOSセンサー”と“PIRセンサー”の2つのセンサーが探知すると、撮影します。

CMOSセンサー・・・カメラに映る画像の変化に反応します。
人や車が動くことで、カメラに映る画像が変化し反応します。

PIRセンサー・・・周囲の温度変化に反応します。
人や車などの熱の動きに反応します。



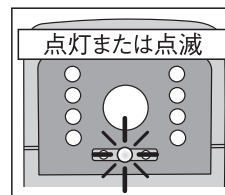
- ⑥ ×ボタン(待機)を1回押すと“監視モード”は終わり、“待機モード”に戻ります。

使用する3:監視モードを解除する時

- ① リモコンの×ボタン(待機)を1回押します。



- ② 本体の中央の緑色LEDが、点灯または点滅すれば、監視モードが解除になり、“待機モード”になります。



使用する4:緊急撮影をする時

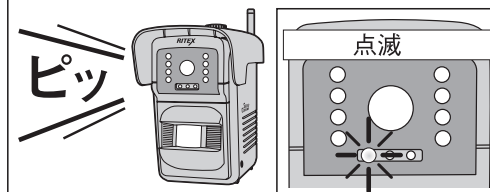
※緊急撮影時の撮影枚数、上書の許可・禁止は設定画面の“撮影枚数設定”と“上書許可設定”(P21)で調整してください。

※緊急撮影時の撮影間隔は、設定画面での“撮影間隔設定”(P21)に関係なく、リモコンの△ボタン(撮影)を押すごとに緊急撮影します。

※緊急撮影には、センサーツマミの設定(P23)は関係しません。

緊急撮影の方法

- ① 緊急撮影は、“待機モード”と“監視モード”の時に、撮影可能です。
“再生モード”、“設定画面”の時は、緊急撮影はできません。
- ② リモコンの△ボタン(撮影)を1回押します。
- ③ 本機が“ピッ”と鳴り、設定している枚数分、赤色LEDが点滅し、撮影します。



- ④ 撮影後は、“待機モード”または“監視モード”に戻ります。

緊急撮影の使用例

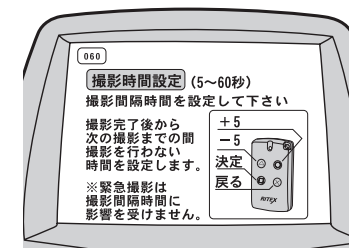
例1) . 本体を設置後、テスト撮影する時。



例2) . 待機モードでご使用中に、緊急で撮影したい時。



例3) . 設定画面で撮影間隔を60秒に設定している場合、監視モードで1度撮影した後、次に撮影するまで、60秒間は撮影しません。この間に緊急で撮影したい場合に△ボタン(撮影)ボタンで撮影できます。



撮影画像1:再生モードで撮影した画像の確認

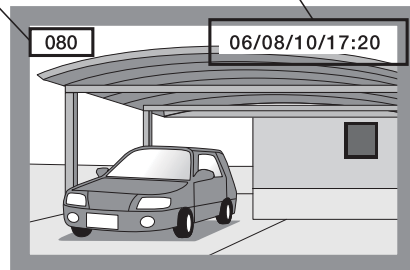
- ① “待機モード”になっているか確認します。
※ “待機モード”になっていない場合は、“待機モードについて”(P29)を参照
※ 撮影した画像が無い場合は、“設定画面”になります。
- ② リモコンの□ボタン(再生)を1回押します。



- ③ 最後に撮影された画像が、モニターに表示されます。

最後に撮影した画像の番号です。
※ 撮影されている画像の枚数ではありません。

最後に撮影した画像の
年月日と時刻です。



注意

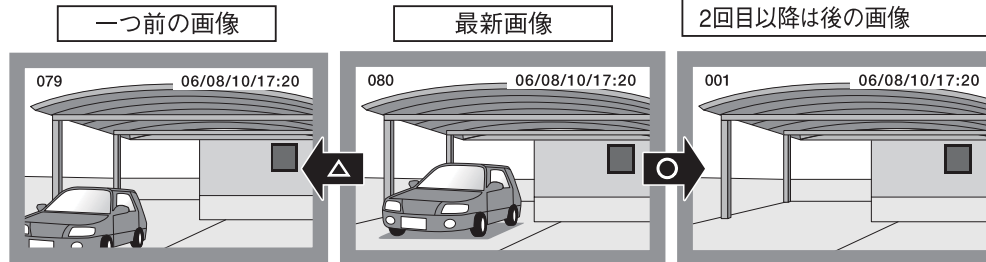
撮影画像に、点々または横筋などが入った乱れた画像がある場合は、撮影画像を確認後、一度“全ての画像を消去”(P33)を行ってください。そのまま使用されると、撮影画像が保存できなくなる可能性があります。
“再生中の画像の消去”だけでは、再度、乱れた画像になる可能性があります。必ず“全ての画像を消去”(P33)で消去を行ってください。

- ④ ○ボタン(監視)を1回押すごとに1つ後の画像になります。
(初めに1回押した後は、1番古い画像が表示されます。)
押し続けると、次々と後の画像になります。

△ボタン(撮影)を1回押すごとに1つ前の画像になります。
押し続けると、次々と前の画像になります。



1回目押した時は1番古い画像
2回目以降は後の画像

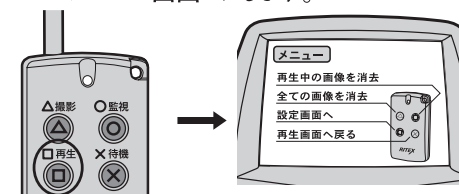
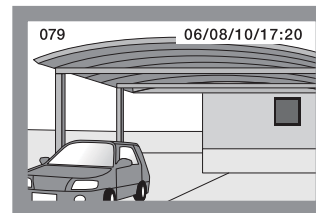


- ⑤ ×ボタン(待機)を1回押すと“再生モード”は終わり、“待機モード”に戻ります。
※ “監視モード”でご使用の場合は、再度、“監視モード”の設定をしてください。

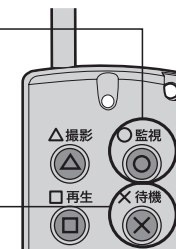
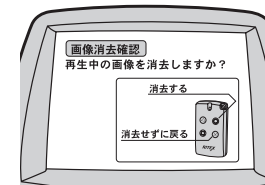
撮影画像2:保存している撮影画像の消去

再生中の画像を消去

- ① “再生モード”で消去したい画像を選択します。
- ② リモコンの□ボタン(再生)を1回押し、“メニュー画面”にします。



- ③ “メニュー画面”で○ボタン(監視)を押し、“再生中の画像を消去”を選択します。
“画像消去確認”の画面が表示されます。
・再生中の画像を消去する場合は、○ボタン(監視)を押します。
・消去せずに戻る場合は、×ボタン(待機)を押します。



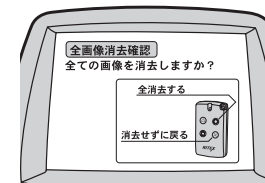
- ④ この後、画像が残っている場合は“再生待機モード”になります。
・画像が無くなった場合は“待機モード”になります。
※ “監視モード”でご使用の場合は、再度、“監視モード”の設定をしてください。

全ての画像を消去

- ① “メニュー画面”にします。
“メニュー画面”の表示方法は“リモコン操作の早見表”(P17)を参照してください。



- ② “メニュー画面”で△ボタン(撮影)を1回押し、“全ての画像を消去”を選択します。
“全画像消去確認”の画面が表示されます。
・全ての画像を消去する場合は、○ボタン(監視)を押します。
・消去せずに戻る場合は、×ボタン(待機)を押します。



- ③ この後、“待機モード”になります。
※ “監視モード”でご使用の場合は、再度、“監視モード”の設定をしてください。

組合せ1:別売品の無線シリーズ

本機と組合せ可能な、別売の無線シリーズがあります。

本機は発信機能と受信機能が 있으므로、使用目的に合わせて、各発信機、受信機と組合わせてご使用ください。

発信機

W-810 (別売)
センサー

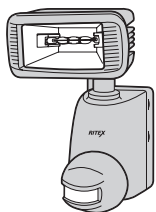


センサーが探知して、受信機に発信。録画カメラが監視モードの場合、撮影する。

PX-910 (別売)
センサー180°

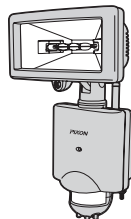


W-830 (別売)
センサー付
ハロゲンライト150W



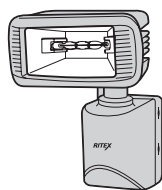
センサーが探知して、本体のライトが点灯、同時に受信機に発信。録画カメラが監視モードの場合、撮影する。

PX-930 (別売)
ライト一体型
センサー180°



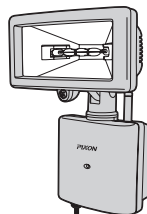
受信機

W-820 (別売)
ハロゲンライト150W



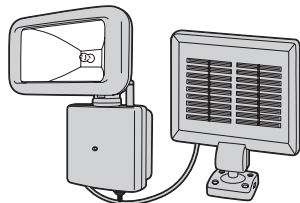
録画カメラのPIRセンサーが探知して発信後、ライトが点灯する。

PX-920 (別売)
ライト



録画カメラのPIRセンサーが探知して発信後、ライトが点灯・点滅する。

PX-950 (別売)
ソーラーライト



録画カメラのPIRセンサーが探知して発信後、ライトが点灯・点滅する。
ソーラー発電で電源不要。6Wハロゲンライト

W-840 (別売)
チャイム・アラーム



録画カメラのPIRセンサーが探知して発信後、チャイム音、アラーム音の選択している音が鳴る。音量調整可能。

PX-940 (別売)
ボイス付
チャイム&アラーム



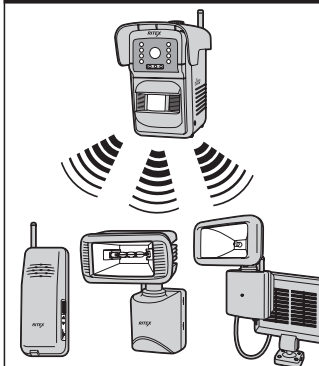
録画カメラのPIRセンサーが探知して発信後、チャイム音、アラーム音、ボイスの選択している音が鳴る。音量調整可能。

組合せ2:複数の無線シリーズとの組合せ

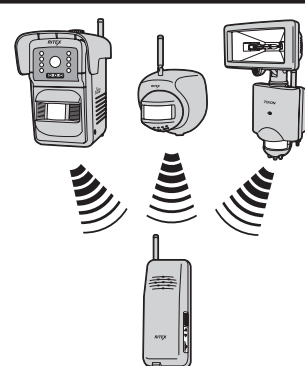
チャンネルを切替えることで、発信機と受信機の組合せが自在にできます。

同じチャンネルに合わせることで、組合せができます。

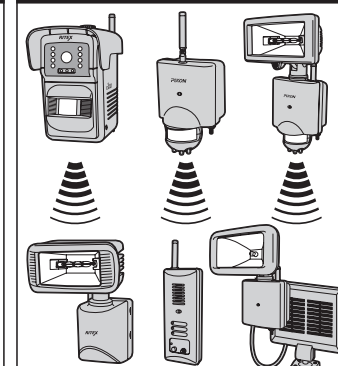
1つの録画カメラと複数の受信機の組合せ



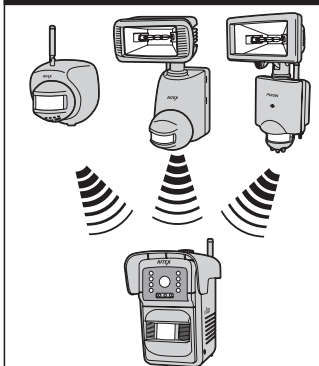
複数の発信機と1つの受信機の組合せ



各組合せごとにチャンネルを合わせれば混信しません



複数の発信機と1つの録画カメラの組合せ



※本機は、発信と受信の両方の機能がありますので、2台を同じチャンネルで使用する事は可能ですが、片側の録画カメラのPIRセンサーが探知すると、もう一方の録画カメラに録画されますので、別のチャンネルで使用するか、使用目的に合わせて、2台の録画カメラのPIRセンサーとカメラの画角を調整してください。



※1・・・他の発信機と組み合わせる場合、他の発信機のセンサーの探知角度を、本機のカメラ画角と合わせてください、合っていないとカメラに、探知した物が録画されません。

※2・・・本機は、無線センサーライトにも対応していますので、次の商品が近所に同じチャンネルで、設置されている場合も混信し誤動作をしますのでチャンネルを切替えてください。

RITEX ...W-810、W-820、W-830、W-840

PIXON ...PX-910、PX-920、PX-930、PX-940、PX-950

※3・・・PX-960 (リモコン) には対応していません。

※4・・・2台以上の発信機が同時に発信した場合、受信機が動作しないことがあります故障ではありません。

組合せ3:別売品との電波到達距離

電波の原因で、別売品との動作がしない場所

- 発信機と受信機の上に金属や鉄筋コンクリート壁がある。
周辺が金属に囲まれている場所（スチールキャビネットの間、カラオケボックス等）
- 壁面内に断熱用にアルミ箔を貼り付けたグラスウール
- テレビ・ラジオの送信所近辺の強電界地域または各種無線局が近くにある場合。
- 発信機と受信機との距離が離れすぎている。
- 本機の近くで携帯電話やPHS電話を使用している場合
- ラジオ、電子レンジ、蛍光灯、コードレス電話、FAX、パソコン、OA機器や家電製品から2m以上離してください。

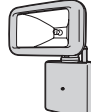
見通しの良い所での電波到達距離

本機（C-800）が受信の場合

W-810 (センサー) 	PX-910 (センサー180°) 	W-830 (センサー付 ハロゲンライト150W) 	PX-930 (ライト一体型 センサー180°) 	約30m 	本機（C-800） 
---	--	---	--	--	--

W-810、PX-910、W-830、PX-930のセンサーが探知すると、本機（C-800）が撮影します。※詳しくは、“本機（C-800）と発信機（別売品）のテスト動作”（P37）を参照

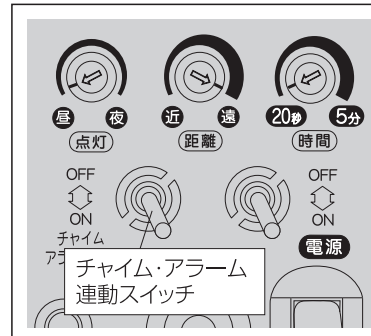
本機（C-800）が発信の場合

本機（C-800） 		※無線シリーズの受信機への発信は、PIRセンサーが探知すると行います。 CMOSセンサーの探知は関係しません。	
約30m 	約50m 		
本機（C-800）のPIRセンサーが探知すると点灯。 ※詳しくは、“本機（C-800）と受信機（別売品）のテスト動作”（P38）を参照		本機（C-800）のPIRセンサーが探知すると鳴る。 ※詳しくは、“本機（C-800）と発信機（別売品）のテスト動作”（P39）を参照	
W-820 (ハロゲンライト 150W) 	PX-920 (ライト) 	PX-950 (ソーラーライト) 	W-840 (チャイム・アラーム) 
			PX-940 (ボイス付チャイム&アラーム) 

組合せ4:チャイム・アラーム連動スイッチの使い方

本機（C-800）とW-840（チャイム・アラーム）、またはPX-940（ボイス付チャイム&アラーム）を組合わせた時に使用します。

- チャイム・アラーム連動スイッチがOFFの時
センサーの調節ツマミの“点灯ツマミ”に関係なく、W-840、PX-940が昼も夜も鳴ります。
- チャイム・アラーム連動スイッチがONの時
センサーの調節ツマミの“点灯ツマミ”に連動して、W-840、PX-940が鳴ります。



(例) 点灯ツマミを「夜」に回している場合、W-840、PX-940は夜、暗くなってから鳴ります。昼の明るい時には鳴りません。



組合せ5:本機（C-800）と発信機（別売品）のテスト動作

本機（C-800）とW-810（センサー）、W-830（センサー付ハロゲンライト150W）、PX-910（センサー180°）、PX-930（ライト一体型センサー180°）の場合

① W-810、W-830、PX-910、PX-930のツマミの調節	② 本機は、“監視モード”にします。	③ W-810、W-830、PX-910、PX-930のセンサーの探知範囲に入り、すぐに出る
・点灯ツマミを「昼」に回す ・距離ツマミを「遠」に回す  	“監視モード” ※本機（C-800）が“監視モード”でない場合は、W-810、W-830、PX-910、PX-930のセンサーが探知しても撮影しません。	撮影する W-810、W-830、PX-910、PX-930のセンサーが探知すると撮影します。 また、本機（C-800）のPIRセンサーとCMOSセンサーが探知しても撮影します。

注意 ● 撮影しない時は、各機種の取扱説明書に記載してある“故障かなと思った時”の事項を参照してください。

組合せ6:本機(C-800)と受信機(別売品)のテスト動作

※無線センサーライトの受信機への発信は、本機(C-800)のPIRセンサーが探知すると行います。
CMOSセンサーの探知は関係しません。
※本機(C-800)のPIRセンサーは、“待機モード”、“再生モード”、“監視モード”、“設定画面”
どの状態でも探知します。

本機(C-800)と W-820(ハロゲンライト150W)、またはPX-920(ライト)との場合

① 本機(C-800)のセンサー ツマミの調節	② W-820、PX-920の 電源を入れる	③ 本機のPIRセンサーの探知範 囲に入り、すぐに出る
- 点灯ツマミを 昼 に回す - 距離ツマミを 遠 に回す - 時間ツマミを 20秒 に回す 	ライト消灯 点灯 ▶ 消灯	本機(C-800)のPIRセンサーが探知するとW-820、PX-920が点灯します。 約20秒後に消灯 ※本機(C-800)のPIRセンサーは、“待機モード”、“再生モード”、“監視モード”、“設定画面”どの状態でも探知します。



- 点灯、消灯しない時は、各機種の取扱説明書に記載してある“故障かなと思った時”の事項を参照してください。
- ライトが点灯しない場合は、一度センサーの探知範囲から2分以上離れ、再びセンサーに近づくとライトが点灯します。

本機(C-800)とPX-950(ソーラーライト)の場合

① 本機(C-800)のセンサー ツマミの調節	② PX-950の電源を 入れる	③ 本機のPIRセンサーの探知範 囲に入り、すぐに出る
- 点灯ツマミを 昼 に回す - 距離ツマミを 遠 に回す 	ライト消灯 点灯 ▶ 消灯	本機(C-800)のPIRセンサーが探知するとW-850が点灯します。 約20秒後に消灯 ※本機(C-800)のPIRセンサーは、“待機モード”、“再生モード”、“監視モード”、“設定画面”どの状態でも探知します。



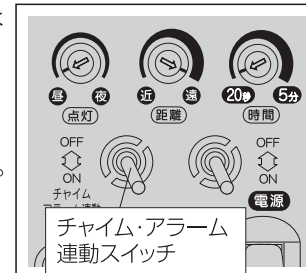
- PX-950(ソーラーライト)はセンサーの時間ツマミに関係なく約20秒で消灯します。
- 点灯、消灯しない時は、各機種の取扱説明書に記載してある“故障かなと思った時”の事項を参照してください。
- ライトが点灯しない場合は、一度センサーの探知範囲から2分以上離れ、再びセンサーに近づくとライトが点灯します。

本機(C-800)とW-840(チャイム・アラーム)、またはPX-940(ボイス付チャイム&アラーム)の場合

① 本機(C-800)のセンサー ツマミの調節	② W-840、PX-940の電源 を入れる	③ 本機のPIRセンサーの探 知範囲に入り、すぐに出る
- 点灯ツマミを 昼 に回す - 距離ツマミを 遠 に回す 	チャイム・アラーム 消音 電源を入れた直後は、音が鳴ることがありますが、故障ではありません。消音(鳴り終える)するまで待ってください。	本機(C-800)のPIRセンサーが探知するとW-840、PX-940が鳴ります。 鳴る ▶ 消音 セットされている音が鳴り終わると消音します。 ※本機(C-800)のPIRセンサーは、“待機モード”、“再生モード”、“監視モード”、“設定画面”どの状態でも探知します。

W-840、PX-940を“点灯ツマミ”に連動して鳴らしたい場合は“チャイム・アラーム連動スイッチ”をONにしてください。

(例) 点灯ツマミを **夜** に回している場合、W-840、PX-940は夜、暗くなってから鳴ります。昼の明るい時には鳴りません。



- W-840(チャイム・アラーム)、PX-940(ボイス付チャイム&アラーム)はセンサーの時間ツマミには関係しません。
- 点灯、消灯しない時は、各機種の取扱説明書に記載してある“故障かなと思った時”の事項を参照してください。
- アラームは約30秒間鳴ります。センサーの探知範囲に居続けると、消音しません。一度センサーの探知範囲から消音するまで離れて、再びセンサーに近づくとセットされている音が鳴ります。

組合せ7:別売の無線シリーズと組合わせての使用例

本機は別売の無線シリーズと互換性があり(※1)、組合わせての使用ができます。

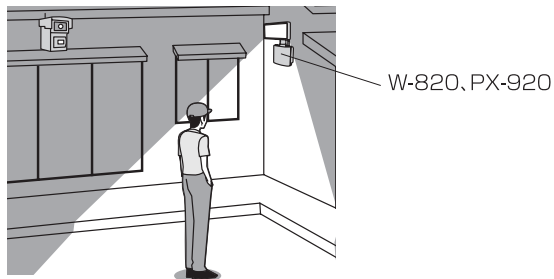
※1 PX-960(リモコン)には対応していません。

※ 他の発信機と組合わせる場合、他の発信機のセンサーの探知角度を、本機のカメラ画角と合わせてください、合っていないとカメラに、探知した物が録画されません。

本機と別売の受信機を組合わせる場合

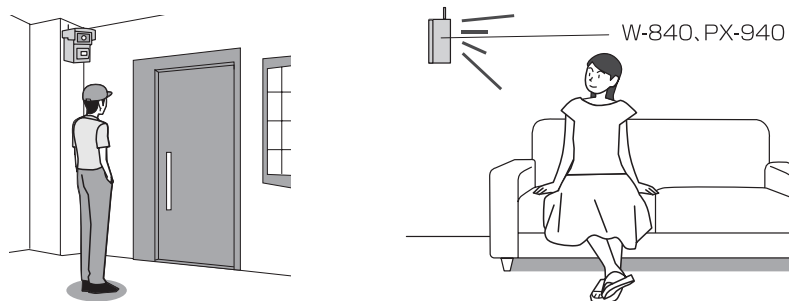
①W-820(ハロゲンライト150W)、PX-920(ライト)との組合わせ・・・

本機のPIRセンサーが探知後、電波を発信してライトが点灯します。
暗い所を明るく照らして撮影できます。防犯効果もアップします。



②W-840(チャイム・アラーム)、PX-940(ボイス付チャイム&アラーム)との組合わせ・・・

本機のPIRセンサーが探知後、電波を発信してチャイム・アラームが鳴り、来訪者を知らせます。



③W-840(チャイム・アラーム)、PX-940(ボイス付チャイム&アラーム)との組合わせ・・・

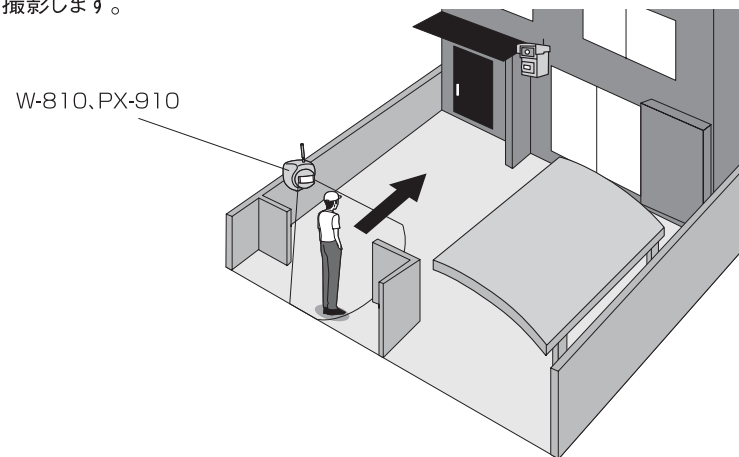
本機のPIRセンサーが探知後、電波を発信してアラーム音が鳴り、防犯効果に役立ちます。



本機と別売の送信機を組合わせる場合

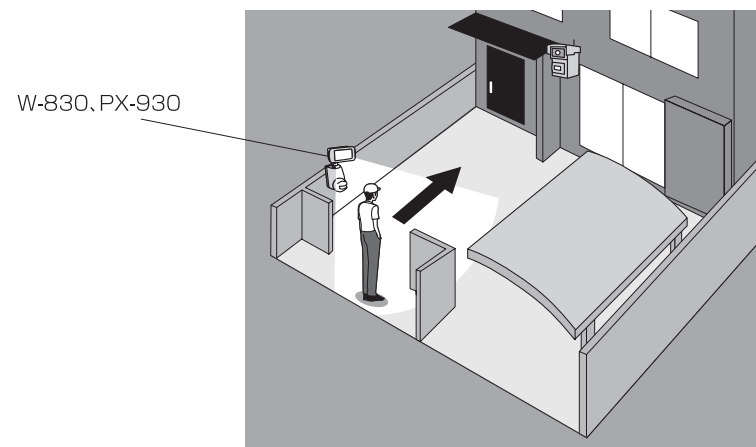
④W-810(センサー)、PX-910(センサー180°)との組合わせ・・・

本機のセンサーでは、探知しにくい直進方向の撮影時に、探知しやすい場所に別のセンサーを設置して撮影します。



⑤W-830(センサー付ハロゲンライト150W)、PX-930(ライト一体型センサー180°)との組合わせ・・・

本機のセンサーでは、探知しにくい直進方向の撮影時に、探知しやすい場所に別のセンサーを設置して撮影します。ライト付きセンサーの明かりで、暗い所を明るく照らして撮影できます。防犯効果もアップします。

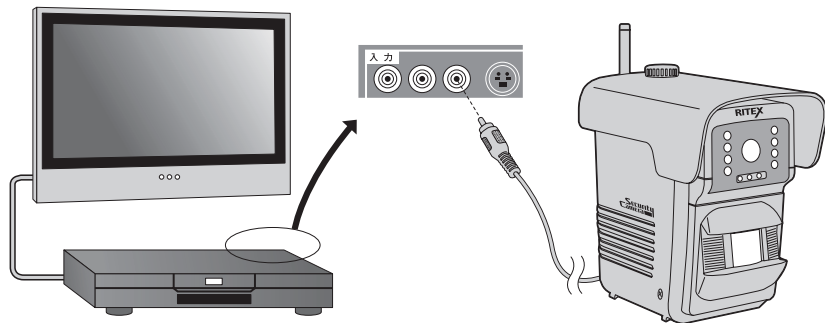


組合せ8:ビデオデッキ、DVDレコーダーへの録画をする時

カメラに映る画像を録画する場合

① 本体を“待機モード”か“監視モード”にし、常にカメラが画像を映している状態にします。

② 本体の映像ケーブルを、お手持ちのビデオデッキまたはDVDレコーダーと接続します。



③ モニターに現在のカメラ画像が、映っているか確認します。

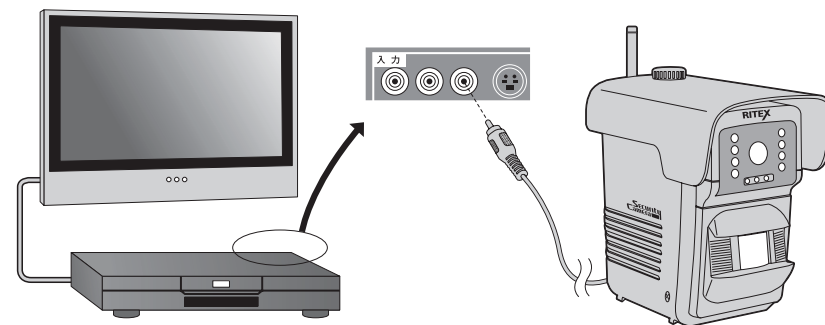


④ ビデオデッキまたはDVDレコーダーの録画機能で、録画します。

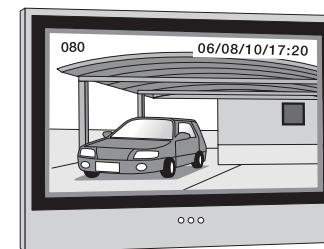
カメラ本体に保存してある画像を録画する場合

① 本体を”再生モード”にします。

② 本体の映像ケーブルを、お手持ちのビデオデッキまたはDVDレコーダーと接続します。



③ 再生モードで保存している画像がモニターに映っているか確認します。



④ リモコンで残しておきたい画像を選択し、ビデオデッキまたはDVDレコーダーの録画機能で、録画します。

故障かなと思った時

画面・画像について

現 象	考えられる原因	処 置
モニターに画像が映らない	本体の電源がOFFになっている。	電源をONにする。
	映像ケーブルの接続がされていない。	映像ケーブルを本体とモニターにしっかりと接続する。
	モニターの接続する端子が間違っている。	モニターの映像入力端子に接続する。
	モニターの入力選択(画面選択)が間違っている。	モニターの入力選択(画面選択)を合せてください。
撮影した画面が見えにくい	映像ケーブルの接続が、しっかりされていない。	映像ケーブルを本体とモニターにしっかりと接続する。
	CMOSセンサーのレンズ部が汚れている。	CMOSセンサーのレンズ部をやわらかい布で傷が付かないようにふき取る。
	周囲が暗い状態で使用している。	別売の無線シリーズのライトと組合わせる。または、外灯のある場所で使用する。
撮影した画像が、黒くて何も映っていない	設定画面でのセンサー感度の設定を“6”にしている場合、PIRセンサーのみが探知すると撮影します。この場合、PIRセンサーの探知範囲内で人が動くと、黒くて何も見えない画像になります。	照明器具や別売の無線シリーズのライト関係と合せて使用してください。
撮影した画像が、白くなっている	夜に外灯や無線シリーズのライトと合せて使用する場合、初めの撮影画像が白くなる時があります。	本体の設置場所を調節する。または設定画面の撮影枚数を増やす。
	夜に外灯や無線シリーズのライトが直接本体に当たっている。	
撮影画像の確認ができない	画像が1枚も撮れていない。	画像がない時は、画像の確認はできません。
“メニュー画面”にならない	画像が1枚も撮れていない。	画像がない時は、“メニュー画面”になりません。
“監視モード”にならない	待機モードの状態から、監視モードの設定をされていない。	“監視モードにする時”(P30)を参照
“緊急撮影”ができない	“再生モード”、“設定画面”の時は、緊急撮影はできません。	緊急撮影は、“待機モード”と“監視モード”の時に、撮影可能です。“緊急撮影をする時”(P31)を参照
撮影画像に、点々または横筋などの入った乱れた画像がある	“監視モード”や“緊急撮影”時に電源をOFFにされた。または落雷や停電により電源が切れた。	一度“全ての画像を消去”(P33)を行ってください。そのまま使用されると、撮影画像が保存できなくなる可能性があります。 ※“再生中の画像の消去”だけでは、再度、乱れた画像になる可能性があります。必ず“全ての画像を消去”(P33)で消去を行ってください。

センサー・撮影について

現 象	考えられる原因	処 置
人が前を通っても撮影しない(探知範囲に人がいるのに撮影しない)	監視モードになっていない。	監視モードにしてください。 “監視モード(センサーが探知すると撮影)にする時”(P30)を参照
	保存している撮影画像が400枚に達している場合、設定画面の上書許可設定が“禁止”になっていると撮影されません。	設定画面の上書許可設定を“許可”にする。または、保存している撮影画像を消去する。 “上書許可設定”(P21)を参照 “保存している撮影画像の消去”(P33)を参照
	設定画面の撮影間隔が、長めになっている場合、その間は撮影できません。	撮影間隔を短くする。 “撮影間隔設定”(P21)を参照
	CMOSセンサーのセンサー感度が、鈍く設定されている。	設定画面でのセンサー感度は、数値が大きいほど、小さな動きにも探知します。推奨設定は設定“5”です。 “センサー感度設定”(P22)を参照
	PIRセンサーの距離ツマミが、 近 側に設定されている。	距離ツマミを 遠 側に回してください。 “センサーツマミの設定”(P23)を参照
	PIRセンサーの向きが、上か下に向き過ぎている。	PIRセンサーを、探知させたい向きに調節する。
	本機に向かって真っすぐ接近している。	
	CMOSセンサーのレンズ、またはPIRのセンサーレンズが汚れていたり、蒸気や雨などの水滴が付いている。	CMOSセンサーのレンズ、またはPIRのセンサーレンズをやわらかい布で傷が付かないようにふき取る。
	寒冷地などで顔がマフラーで覆われていたり、手袋をしている場合、PIRセンサーが探知しないことがあります。	PIRセンサーは、人や車などの熱の動きに探知しますので、左記のような場合、探知しにくいことがあります。
	雨の日に傘で顔や手が隠れている。	
探知範囲に人がいないのに撮影する	探知範囲内に誤動作源がある。 (例)・他の照明器具・エアコンの吹出口 ・犬や猫などが動いている ・風などでよくゆれる物(看板、旗、植物等) ・車の熱やヘッドライト ・強いノイズ(無線ノイズ等)	誤動作源を取り除く (左記に該当する物があれば、取り除くか本体を移動する)
	センサーの向きに、道路があり、人や車の動きに探知している。	探知範囲を規制する。
	近所と同じ録画カメラ、または対応機種である無線シリーズの発信機が、同じチャンネルで設置されている。	本体とリモコンのチャンネルを切替える。 “本体とリモコンのチャンネルの確認”(P14)を参照

リモコン操作について		
現 象	考えられる原因	処 置
リモコンが作動しない	電池が入っていない。	リモコンのボタンを押した時に、リモコンの赤ランプが点灯するか確認してください。点灯しない場合は、電池が切れているので、新しい電池に交換してください。
	リモコンの電池が切れている。	
	電池の＋が逆になっている。	
	リモコンを押した時に、赤LEDは点灯するが、本体が作動しない。	本体とリモコンのチャンネルが合っているか確認する。 “本体とリモコンのチャンネルの確認”（P14）を参照
	本体とリモコンの距離が離れ過ぎている。	本体とリモコンの距離を近づける。
	本体とリモコンの間に金属や鉄筋コンクリート壁がある。	本体とリモコンの間に金属や鉄筋コンクリート壁がこないように、本体の位置を変更する。

無線シリーズ（W-820、PX-920、PX-950）との組合せについて		
現 象	考えられる原因	処 置
消灯しない	近所に無線シリーズの発信機が設置されている場合、他の発信機により点灯した可能性があります。	チャンネルの設定を切替える。 “本体とリモコンのチャンネルの確認”（P14）を参照
	本機のPIRセンサーの探知範囲内に人がい続けている為、時間が延長され、消灯しない。	センサーの探知範囲から出る。
探知範囲内に人がいるのに点灯しない	本機（C-800）とW-820、PX-920、PX-950との間に障害物がある、または取付け高さに差がある為、電波が到達していない。	本機（C-800）とW-820、PX-920、PX-950との取付け位置を実際に動作する所まで近づけてください。
	W-820、PX-920、PX-950の電源が入っていない。（コンセントが外れている、バッテリー充電不足、スイッチがOFF等・・・）	電源を入れる。 各機種の取扱説明書に記載してある“故障かなと思った時”参照
探知範囲内に人がいないのに点灯する	センサーの探知範囲内に誤動作源があり、人以外のものを探知している。	・誤動作源を取り除くか、本機の見つけ場所を替える。 ・本機のPIRセンサーの探知範囲を規制する。 “PIRセンサーの探知範囲”（P11）を参照
	探知範囲に道路があり、自動車や人の動きを探知している。	PIRセンサーの向きを変える。
	W-820、PX-920、PX-950、その他の照明器具のライトの光が直接、本機のPIRセンサーに当たっている。	ライトの光が直接センサーに当たらないようにする。
	近所に無線シリーズの発信機が設置されている場合、他の発信機により点灯した可能性があります。	チャンネルの設定を切替える。 “本体とリモコンのチャンネルの確認”（P14）を参照
探知範囲内に人いるのにライトが消灯する	電源を投入した直後。（停電直後）	時間（タイマー）経過後、消灯する事を確認する。 “時間ツマミの設定”（P23）を参照
	時間ツマミが 20分 側に調節されている。	時間ツマミを 5分 側に調節する。 “時間ツマミの設定”（P23）を参照
	探知範囲内で人が静止している。	センサーは静止している人には探知しません。
周囲が明る時に点灯しない	PIRセンサーの点灯ツマミが 夜 側に調節されている。	点灯ツマミを 昼 側に調節する。
周囲が暗いのに点灯ツマミを 夜 側にしても、ライトが点灯しない	PIRセンサーのレンズに他の照明器具の光が当たり、センサーが夜と認識していない。	点灯ツマミを 昼 側にライトが点灯するまで回す。 “点灯ツマミの設定”（P23）を参照

無線シリーズ (W-820、PX-920) との組合せについて		
現 象	考えられる原因	処 置
消灯しない	センサーの時間ツマミが 5分 側に調節してある場合、約5分間、人が探知範囲外にいても消灯しません。	時間ツマミを 20分 側に調節する。 “時間ツマミの設定” (P23) を参照
	本機からの発信電波が弱い。	“電波の原因で、別売品との動作がしない場所” (P36) を参照

無線シリーズ (W-840、PX-940) との組合せについて		
現 象	考えられる原因	処 置
点灯ツマミを 夜 側にしているのに、周囲が明るい時に鳴る	チャイム・アラーム連動スイッチがOFFになっている。	チャイム・アラーム連動スイッチをONにする。 “チャイム・アラーム連動スイッチの使い方” (P37) を参照
探知範囲内に人がいるのに鳴らない	本機 (C-800) とW-840、PX-940との間に障害物がある、または取付け高さに差がある為、電波が到達していない。	本機 (C-800) とW-840、PX-940との取付け位置を実際に動作する所まで近付けてください。
	W-840、PX-940の電源が入っていない。	電源を入れる。 各機種 of 取扱説明書に記載してある“故障かなと思った時” 参照
探知範囲内に人がいないのに鳴る	センサーの探知範囲内に誤動作源があり、人以外のものを探知している。	・誤動作源を取り除くか、本機の取付け場所を替える。 ・本機のPIRセンサーの探知範囲を規制する。 “PIRセンサーの探知範囲” (P11) を参照
	探知範囲に道路があり、自動車や人の動きを探知している。	PIRセンサーの向きを変える。
	照明器具のライトの光が直接、本機のPIRセンサーに当たっている。	ライトの光が直接センサーに当たらないようにする。
	近所に無線シリーズの発信機が設置されている場合、他の発信機により鳴る可能性があります。	チャンネルの設定を切替える。 “本体とリモコンのチャンネルの確認” (P14) を参照
周囲が明るい時に鳴らない	PIRセンサーの点灯ツマミが 夜 側に調節されて、チャイム・アラーム連動スイッチがONになっている。	点灯ツマミを 昼 側に調節する。 または、チャイム・アラーム連動スイッチをOFFにする。
周囲が暗いのに点灯ツマミを 夜 側にしても、鳴らない	PIRセンサーのレンズに他の照明器具の光が当たり、センサーが夜と認識していない。	点灯ツマミを 昼 側に鳴るまで回す。 “点灯ツマミの設定” (P23) を参照

無線シリーズ (W-810、W-830、PX-910、PX-930) との組合せについて		
現 象	考えられる原因	処 置
W-810、W-830、PX-910、PX-930のセンサーの前を、人が通っても撮影しない (探知範囲に人がいるのに撮影しない)	本機 (C-800) とW-810、W-830、PX-910、PX-930との間に障害物がある、または取付け高さに差がある為、電波が到達していない。	本機 (C-800) とW-810、W-830、PX-910、PX-930との取付け位置を実際に動作する所まで近付けてください。
	本機 (C-800) が“監視モード”でない場合は、W-810、W-830、PX-910、PX-930のセンサーが探知しても撮影しません。	本機 (C-800) を“監視モード”にしてください。
	本機 (C-800) の保存している撮影画像が400枚に達している場合、設定画面の上書許可設定が“禁止”になっていると撮影されません。	本機 (C-800) の設定画面の上書許可設定を“許可”にする。または、保存している撮影画像を消去する。 “上書許可設定” (P21) を参照 “保存している撮影画像の消去” (P33) を参照
	W-810、W-830、PX-910、PX-930のPIRセンサーの距離ツマミが、 近 側に設定されている。	W-810、W-830、PX-910、PX-930の距離ツマミを 遠 側に回してください。
	W-810、W-830、PX-910、PX-930のセンサーの向きが、上か下に向き過ぎている。	PIRセンサーを、探知させたい向きに調節する。
	W-810、W-830、PX-910、PX-930のセンサーに向かって真っすぐ接近している。	
	寒冷地などで顔がマフラーで覆われていたり、手袋をしている場合、W-810、W-830、PX-910、PX-930のセンサーが探知しないことがあります。	W-810、W-830、PX-910、PX-930のセンサーは、人や車などの熱の動きに探知しますので、左記のような場合、探知しにくいことがあります。
	雨の日に傘で顔や手が隠れている。	